



世田谷山観音寺の仁王門



第157号

公益財団法人 特攻隊戦没者  
 慰霊顕彰会  
 編集人 金子敬志  
 発行人 石井光政  
 印刷所 株式会社 SGネクスト  
 ホールディングス

目次

巻頭言	理事	岩崎 茂	2
「千玄室大宗匠」の思い出	会長	藤田幸生	4
第74回世田谷山観音寺年次法要	編集長	金子敬志	6
各地慰霊祭等報告			
三重縣護國神社特攻勇士之像慰霊祭	事務局長	石井光政	11
姫路護國神社「特攻勇士の像」除幕式	事務局長	石井光政	12
国分第二基地十三塚原特別攻撃隊慰霊祭	評議員	高松真希	13
第十二回戦歿学徒慰霊祭	評議員	及川昌彦	14
全日本空挺同志会高野山慰霊祭	評議員	高松真希	15
第六十二桶公回天祭	理事	宮本雅史	18
会員等投稿			
多田野語録	会員	多田野弘	20
特攻隊員へのインタビュー	会員	中川法宏	20
沖繩海上特攻4・7 雪風	会員	水田政雄	23
陸軍特攻 隼回天隊	編集長	橋本正雄	30
ト號空中勤務必携(2)	編集長	金子敬志	37
連載 山ある記32	会員	池田康博	43
絵の寄贈を受けました	編集長	金子敬志	44
書籍紹介「人はなぜ戦場に赴くのか」	会員	鈴木千春	45
芸欄 歌俳柳の広場			
短歌・俳句・川柳			
事務局からの報告等			
挿絵提供 空自OB 宇山氏			
			47
			46

「巻頭言」  
—大東亜戦争80年にあたって—  
公益財団法人 特攻隊戦没者慰霊顕彰会

理事長 岩崎 茂



今年、大東亜戦争が終結し80年の節目に当たる年である。特攻隊戦没者慰霊顕彰会（以降「特攻顕彰会」という）は、毎年3月下旬に靖国神社で特攻隊慰霊祭を、また、毎年、秋分の日には、世田谷山観音寺で特攻隊員年次法要を執り行ってきた。我が「特攻顕彰会」では、これらの慰霊祭に加えて、全国各地で行われる特攻隊員の慰霊祭等に本部役員や会員等に参加している。この他にも、国が主催する追悼式や他慰霊団体が行う慰霊祭等にも参加している。それぞれの慰霊祭等に参加して、特に最近感ずること

はご遺族のご参列が少なくなってきたことである。戦後80年になり、それぞれのご遺族によって必ずしも同じ理由ではないと思うものの、多くのご遺族が高齢者になられたことが最大の要因ではないかと推測している。

このような中、今年の終戦記念日を待たず、特攻隊員のお二人が亡くなられたお一人が、人間国宝の井上萬二氏が本年の7月14日に、もうお一人が、裏千家千玄室大宗匠が8月14日にお亡くなりになりました。

井上萬二氏は、佐賀県の有田町に生まれ、有田焼の大家であり、「白磁の大家」と言われていた人間国宝である。海軍の鹿屋基地で特攻の訓練に勤しみ、ここで培われた強靱な精神力がのちの作陶に大きく影響したといわれている。ご自身が海軍出身であり、有田町は佐世保基地に近いことから海上自衛隊の隊員との交友があり、多くの隊員がお世話になったとお聞きしている。偶然にも私は、西部航空方面隊司令官に着任した以降、海自佐世保総監のご紹介を得て、お会いする機会があった。その際、私が戦闘機のパイロットと申し上げたら、その後飛行機の話になり、予定時間を大幅に超過してしまいご迷惑をおかけしました。その後も何度か有田町に伺い飛行機の話を見せて

いただいたことを鮮明に記憶している。井上氏の人間性に魅せられ、転勤後も何度かお会いし、懇談をさせて頂いた。そのようなことから、9月に行われた有田町での追悼式に参加させて頂いた。素晴らしい追悼式であった。

また、千玄室大宗匠に私が初めてお会いしたのは、世田谷山観音寺での特攻隊年次法要の際、お話をさせて頂いたことがある。やはり、私が戦闘機のパイロットとわかると飛行時間は？スクランブルの経験は？と矢継ぎ早に質問されたことを記憶している。大宗匠は、靖国神社や世田谷山観音寺、そして沖縄県護国神社等で特攻隊員に対し何度か献茶されている。茶道のみならず、人間的にも尊敬する素晴らしい方である。

このように、実際に特攻を知ってられる方々が少なくなり、慰霊祭等に参加されるご遺族も少なくなってきた事を考えれば、我々は、これまで以上にご英霊のご意志を伝える活動を活発にしていかなければいけないと肝に銘ずるとともに、ご遺族の世代交代の促進で、何か「特攻顕彰会」ができることがあるのではと思っている。会員やご遺族の皆様方からのご指導、ご鞭撻を賜りたくお願い申し上げます。

井上萬二氏追悼式に参列して



靖國神社慰霊祭に参列された千玄室大宗匠とご一緒に

「千玄室大宗匠」の思い出  
(公財) 特攻隊戦没者慰霊顕彰会

会長 藤田幸生

7年8月盛夏、暑い盛り、裏千家の第15代家元である「千玄室」大宗匠が、ご逝去された。故人は、元海軍予備学生の白菊特攻隊員であったことから、ご縁があったので、思い出話を書きたい。

1 最初の出会い

昭和41年(1956年)、私が、まだ若い、海上自衛隊の実習幹部であったとき、練習艦隊内地巡行の実習で、東京の「今日庵」を訪ねたことがある。その時は、玄室氏の姉上の塩月八重子女史が、伝統の茶の湯をご接待してくれた。その



時、彼女から、「玄室」氏について、「元海軍特攻隊員であった！」ことと、「米国等に、修行中」との紹介があり、印象深く、覚えている。

2 二回目の出会い

それは、私が海上自衛隊を退職後、大宗匠の海軍予備学生、特攻隊同期の「森丘哲四郎大尉」(東京農業大学ラグビー部出身、海軍14期飛行予備学生、昭和20年4月29日、第5七生隊で鹿屋から出撃、沖縄近海で特攻戦死)の手記発刊に、関わったことからである。大宗匠の同期生は、海軍航空特攻隊で沢山戦死されている。

その中の一人、「森丘哲四郎大尉」は大の仲好しであり、彼の大学時代から特攻戦死する直前までの手記を、そのままの形で、わが会から発刊したことから、そのご遺族とご縁もあり、京都の「今日庵」を、訪問したことがある。その時は、今日庵の図書館も、訪問した。そのとき、大宗匠から「和敬清寂」という言葉を、いただいた。

3 鹿屋慰霊祭

鹿屋の慰霊祭には、二度、ご一緒している。その時には、森丘哲四郎大尉の実

妹とその子供(姪御さん)と、同席している。鹿屋の慰霊塔では、二度とも、献茶をしていただいた。感激である。鹿屋の海上自衛隊資料館には森丘大尉の遺品および、大宗匠が献茶の時に使用した茶碗が展示されている。

4 世田谷山観音寺での年次法要

東京世28年に特攻平和観音像が奉納され、昭和31年から特攻観音堂(華頂の宮家念仏堂を移築)で毎年秋分の日に特攻戦没者への年次法要を行っているお寺だが、ここでも、献茶していただいた。境内にある「あゝ特攻勇士の像」の前での写真も、撮っていただいた。特攻で、散華された同期生等は、裏千家の家元が、「約束を守って献茶してくれること」に、心からの感謝をしていることが偲ばれた。



観音寺において献茶をされる大宗匠

5 靖国神社での特攻隊全戦没者慰霊祭

靖国神社における特攻隊戦没者慰霊祭にも、参列いただいたことが有る。拝殿の一番前の席をご用意していたが、その時、途中で退席されたので、ご気分でも悪くなられたかと心配して秘書の方に伺ったら、大宗匠は「本来自分は向こう側に居るはずなのに、こちらに居て戦友に申し訳ない。座っているのがいたたまれず失礼した」と申しておりました、とのこと。大宗匠の戦友想いと優しさに感銘を受けた。

裏千家第15代家元「千玄室」 幼名「千政興」は、令和7年盛夏、ご逝去された。

彼は、「茶道の家元としての伝統が、彼の命を救った」と、ある意味で、同期生に対する後ろめたさを感じていたのかもしれない。

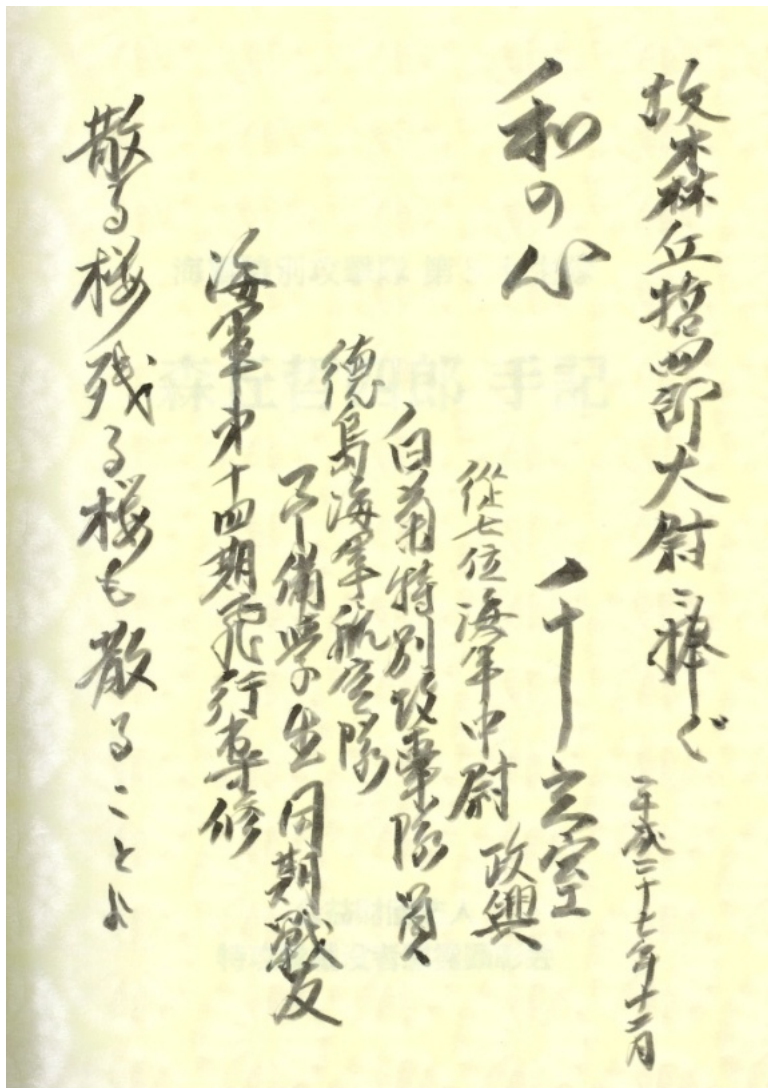
しかし、戦後の日本茶道の家元として、世界規模の彼の生き様、生前の活動にて感じることは、「その分」、任務を十二分に果たして、世界の人類社会に、平和の大事さを、言い残してくれたと思う。

尊敬する先輩の御霊に、 「合掌！」

「和の心」

「散る桜 残る桜も 散ることよ」

(千玄室大宗匠の揮毫)



**第74回特攻平和観音年次法要**

日時 令和7年9月23日(火日)

秋分の日 14時〜15時30分

場所 世田谷山観音寺・特攻観音堂

参加者 132名

**一 概要**

新型コロナウイルスの感染状況が変動し完全に終息していないため、今年も直会を行わず式典だけの実施とされました。式開始に先立ち、219名21団体の方から寄せられたお布施を、岩崎理事長から太田恵淳住職にお渡ししました。

**(1) 式次第**

- 1 梵鐘点打
- 2 国歌吹奏  
トランペット 堀田 和夫 佐々木 太
- 3 願文・宮司神儀(神仏習合)  
願文 世田谷山観音寺 住職 太田 恵淳  
宮司神儀 宮司 澤田 浩治
- 4 駒繫神社 祭文奏上  
特攻隊戦没者慰霊顕彰会  
理事長 岩崎 茂
- 5 世田谷区長挨拶  
保坂 展人
- 6 献吟



トランペットによる国歌吹奏

一誠流

吟詠 龍笛

7 奉納献奏及び慰霊献歌  
甲飛喇叭隊 隊長 原 知崇

「同期の桜」「海ゆかば」  
トランペット 堀田 和夫

8 玉串奉奠  
佐々木 太

9 焼香

10 池前祭

住職読経  
宮司祭祀奏上

竹内 一香  
山下 龍雲

**(2) 祭文**

謹んで在天の御英霊に申し上げます。  
今年、あの苛烈を極めた大東亜戦争  
終結から80年の節目の年です。今年も、  
ここ世田谷山観音寺の特攻観音堂前で、  
この様にご遺族、御来賓をはじめ多くの  
方々がお集まりになり、第74回特攻平和  
観音年次法要が斎行出来ますことに感謝  
申し上げます。

御英霊の皆様が大東亜戦争に於いて、  
身命を賭して戦ってくださったお陰で、  
我が国は、その後繁栄し安寧の80年を過  
ごすことが出来ております。また、世界  
の130有余の国々が欧米の束縛から解  
き放され独立国家として繁栄してきてお  
り、我が国の国民は勿論のこと、多くの  
国の方々が、皆様方に感謝の誠をささげ  
ております。

しかしながら、世界に目を向けますと、  
ロシアによるウクライナ侵攻が止む気配  
もなく、中東に於いてはハマスによるイ  
スラエル攻撃に端を発した紛争が続けら  
れています。また、我が国周辺では北朝  
鮮が核開発に余念なく、ロシアの戦争に  
加担し、中国は覇権主義的行動を一層強  
めております。

このような安全保障環境の変化に対応  
し、我が国の独立と平和を保ち、抑止力

を高めるため、防衛費を増額するとともに国家としての総合力の向上を目指しています。しかしながら、その際、最も大切なことは、国民の「自分の国は自分たちで守る」との意識・覚悟です。皆様方は、この「国を守る気概と利他の精神」を身をもって示して下さいました。今でもその精神は日本を他国から守る抑止力となっております。

私達は、今ここに、御英霊が示されたこの様な精神と御遺志を忘れず、後世に語り継ぎ、我が国の伝統と文化の継承に努め、我が国の発展に寄与する様、尽力することをお誓いします。

なお、今年の8月14日、ここ世田谷山観音寺に於いても特攻隊で亡くなられた皆様に、献茶の儀をして下さいました、海軍予備学生第14期で、茶道裏千家大宗匠の千玄室様が亡くなられました。今頃は多くの同期の方と楽しくお話しされているのではと拝察します。心より生前賜りました御親交に感謝申し上げますとともに、ご冥福をお祈り申し上げます。

そして、在天の御英霊の皆様方、安らかに鎮まります様お願い申し上げます。

令和7年9月23日

公益財団法人 特攻隊戦没者慰霊顕彰会

理事長 岩崎 茂

### (3) 世田谷区長(挨拶)

世田谷区長の保坂展人です。

本日の第七十四回特攻平和観音年次法要にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

今年は「戦後八十年」となる節目の年であります。

先の大戦では、多くの将兵のみならず民間人も含めて、おびただしい戦争犠牲者を出しました。八十年前に焦土と化した日本で、物資・食糧の供給もままならず、ポツダム宣言の受諾から占領下を経て、やがて一九六〇年代の高度経済成長を経て、見事な復興を遂げました。その後、バブルの崩壊から低成長、デフレ経済を経て、平均寿命が世界一の国として安定した社会を築くことが出来ました。

終戦から八十年という時間は、戦争体験者が子どもの世代に苦勞を伝え、子ども世代が孫の世代にバトンを渡していく「三世代」にまたがる長い期間です。

八月には、「戦争をふり返る」報道が続き、私自身も、ノンフィクション作家の半藤一利(はんどう かずとし)さんや、保坂正康(ほさか まさやす)さんの本をはじめ、集中して過去の戦争の歴史をたどる時間を持ちました。

学徒出陣で、また少年飛行兵として特攻作戦に出撃していった特攻隊員の皆様に思いを巡らす時、帰還することなき出撃にあたって、残していった言葉をたどり、国を思う悲壮な決意と、家族に向けた愛情と配慮に胸を揺さぶられます。多くの未来ある若者が特攻作戦で大海原に散って行かれたことを思う時、心からの痛恨の念と敬愛の気持ちをもちます。

私たちが、「戦後八十年間」を戦争のない平和な事態を享受することが出来たことを、逆境に向けてたじろぐことなく進んでいった先人の犠牲を忘れないようにしなければならぬと自らを諭しています。怖いのは、風化と忘却です。長い年月をかけて、歴史の記憶のバトンを次世代に受け継いでいくのは、私たちの責任でもあります。歴史を正確に知ることが、よりよき未来を切り開くことにつながります。

今日、ロシアによるウクライナ侵攻が三年目となり、トランプ大統領の和平斡旋もうまくいかないまま、戦火は激しくなっています。二年前のパレスチナ自治区を実効支配するハマスによる武装攻撃に端を発するイスラエルの軍事行動は、

ガザの街を徹底的に破壊し食糧封鎖で多くの市民を飢餓線上に置いています。戦争は根絶されどころか、第三次世界大戦への危険性すら内包しながら、危機が続いています。今日、平和を語ることは戦争への危機を解消する絶え間ない努力を必要とする時代となりました。

昨年、被爆者の立場から核兵器の廃絶などを訴えてきた日本被団協（日本原水爆被害者団体協議会）がノーベル平和賞を受賞しました。ノルウェーで行われた授賞式で、当時九十二歳という年齢を感じさせない日本被団協の田中熙巳（たなかてるみ）さんの講演は約二十分間続き、講演終了後には会場の聴衆が立ち上がり、惜しみない拍手が鳴り響いた光景は記憶に新しいところです。

ノーベル平和賞授賞式という世界が平和について考える大舞台で、被爆者が核兵器廃絶について訴えることができたことは、核兵器の脅威が高まっていると言われる現代において、大きな意義がありました。

一方、田中さんはその演説の中でこのようにも述べています。

「原爆被害者の現在の平均年齢は八十五

歳。十年先には直接の被爆体験者としての証言ができるのは数人になるかもしれない。これからは、私たちがやってきた運動を、次の世代のみなさんが、工夫して築いていくことを期待しております。」

戦争体験者が年々少なくなる現在において、彼らの思いを忍び、振り返るとき、私たちは自分たちの責任を思い起こさねばなりません。それは、戦争体験者が高齢化する中で証言を続け、私たちも耳を傾けることの出来る残された時間は限りがあるということを教えています。

世田谷区でも、昭和六十年（一九八五年）に平和都市宣言を行い、平成二十七年（二〇一五年）には、「戦後七十年」を記念して、世田谷公園内に平和資料館を開館して、世田谷公園内に平和資料館を開設して戦争の悲惨さを伝える努力を続けています。本年は平和資料館開館十周年を記念して、これまでの足跡をたどる記念誌の発行のほか、保坂正康さんを迎えてのシンポジウム開催をするなど、幅広い年代に応じたイベントを実施し、戦争の悲惨さや恒久平和の大切さについて、区民の皆さんと改めて考える機会をつくりました。

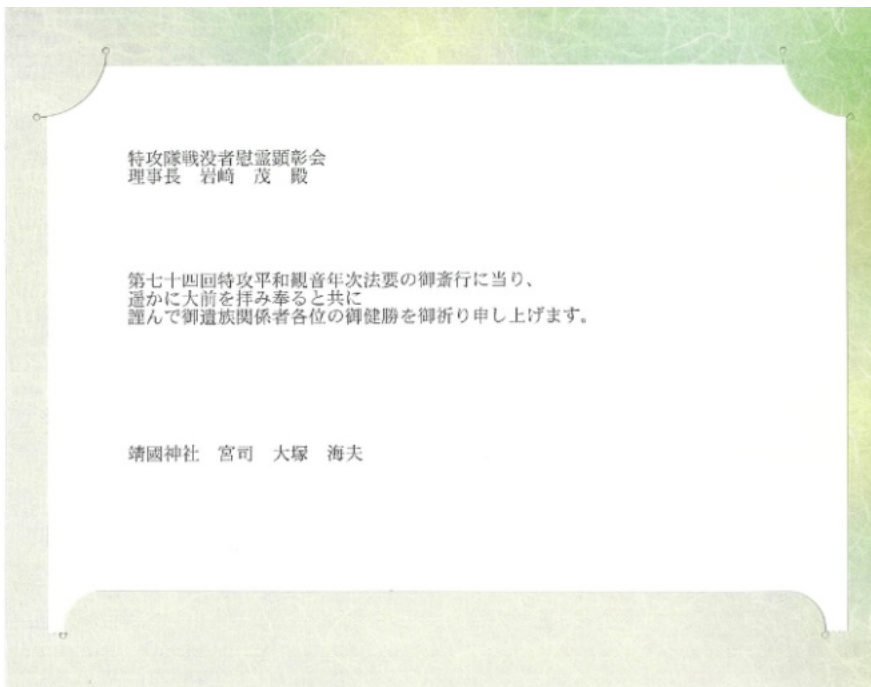
引き続き、皆さんと共に、かつての戦没者・戦争犠牲者を忘れることなく、誰もが支えあい、慈しみあうまちとして歩んでまいりたいと思います。結びに、戦争の犠牲となられた方々への哀悼と、その後のわが国の復興を成し遂げた多くの先人達への感謝、そして永遠の平和を希求していく決意をお誓いして私の挨拶といたします。

令和七年九月二十三日

世田谷区長 保坂 展人



ご挨拶をされる保坂世田谷区長



<div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">102</div> - <div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">0072</div>	
東京都千代田区飯田橋1-5-7 東尊堂ビル2F	
公益財団法人 特攻隊戦没者慰霊顕彰会	
理 事 長 岩 崎 茂 様	
〒102-0074 東京都千代田区九段南1-6-5 九段会館テラス4階 一般財団法人 日本道族会	9 月 18 日 午前 午後 なし <small>翌日以降の配達日指定をされた場合のみ配達時間帯希望が可能です。</small>
TEL (03) 3261-5521	<input type="checkbox"/> ① <input type="checkbox"/> ② <input type="checkbox"/> ③ <input checked="" type="checkbox"/> ④ 普通 ⑤

第七十四回特攻平和観音年次法要のご齋行にあたり、  
平和の礎となられました尊い御霊に対し、  
護国精神の意を表します。  
我が国の今日の平和と繁栄をもたらしたものは何で  
あつたのか、いま改めて思う時、世界に目を向ければ  
未だに紛争が堪えず、罪のない大切な命が、失われ続  
けています。時代の変化の中で苦しみや悲しみはそれ  
な道族を出してはならないという固い決意を持たせ、  
困難を乗り越えてゆく力を後世に残されたのだと、私  
も戦没者の遺児の一人として新たに感じています。私  
ればなりませぬ。命の大切さを後世に語り継いでいかな  
皆様方には「平和を語り継ぐ者」として、今後とも末  
永くお力添えいただければ幸いです。ご多幸を心より祈  
念いたします。

一般財団法人 日本道族会  
会 長 水 落 敏 崇

この度、第74回特攻平和観音  
年次法要の開催にあたり、皆様方  
のご尽力に敬意を表します。

国家に殉じた英霊が安らかに眠られ  
ますことを、お祈り申し上げます。

小職も常に戦没者に想いを馳せ、  
日々の公務に当たって参ります。

合掌



“ヒゲの隊長”こと  
前参議院議員

佐藤 まさひさ

三重縣護國神社の「あゝ特攻」勇士之像  
慰霊祭に参列して

事務局長 石井光政

令和7年8月8日（金）、万燈みたま祭の準備が整い、多くの提灯が飾られている、三重縣護國神社境内の「あゝ特攻」勇士之像前で、英霊にこたえる会三重県本部（中森博文 会長）主催で、三重県出身特攻隊員139柱（陸軍33柱、海軍106柱）の御霊に対し慰霊祭が斎行されました。

当日は、36度を超える猛暑でしたが、約40名の方が参列され、15時から15時40分までの間、修祓から、祝詞奏上、玉串奉奠、と神事は厳かかつ濟々と続き、神事終了後の中森会長のご挨拶で慰霊祭は終了しました。

慰霊祭後は参集殿で、英霊にこたえる会副会長の國松善次氏（元滋賀県知事）の講話が行われ、知事を2期終わって75歳になってから、全国52か所の護國神社を自転車で廻り、その間に感じたことを熱く語られた。特に、戦後80年を経て、GHQの呪縛から解放され、戦争で亡くなられた英霊の慰霊をしっかりとやらなければ日本の行く末は危ない、そのためにも、護國神社と靖國神社をしっかりと支えるべきで、滋賀県護國神社県民奉賛会を

立ち上げたことなどを話された。

慰霊祭も講演会も、特攻隊で亡くなられた方々と日本への熱い想いがひしひしと感じられた有意義な一日でした。

英霊にこたえる会三重県本部と、三重県隊友会の皆様方に感謝申し上げます。

みたま祭の様子



神事

兵庫縣姫路護國神社「特攻勇士の像」除幕式に参列して

事務局長 石井光政

令和7年8月15日(金)、終戦80年の日、兵庫縣姫路護國神社(泉和慶 宮司)で「大東亜戦争終結80年」の「英霊感謝祭」に合わせて、「特攻勇士の像」除幕式が行われました。

当日は、36度を超える暑さでしたが、護国神社境内には多くの参拝者がお越しになり、英霊に感謝の誠を捧げられました。

姫路護國神社では、毎年、8月15日に英霊感謝祭を斎行しています。当日は、10時に英霊感謝祭が始まり、本殿に於いて神事が執り行われました。今年も祝詞の中で、特攻戦没者にも触れて下さいました。

英霊感謝祭終了後に「特攻勇士の像」前に移動し、関係者で除幕を行いました。平成19年から始まった、各道府県等への特攻像奉納は、兵庫縣姫路護國神社で23府県目となります。

真新しい特攻像の台座にはこの像の建立趣旨が書かれた金属板が嵌められており、そこには以下の文言が記述されています。

「特攻作戦で戦死した若者は 全国で

六千五百余柱 兵庫県でも姫路海軍航空隊において編成された神風特別攻撃隊白鷺隊の英霊をはじめ 陸海軍併せて百五十柱を超える 戦いの末期 本土決戦を間近にひかえ 自ずから従容として戦場に散った 国を護る責任感と 同胞を愛する純粋な魂が特攻を支えた精神である 「祖国よ永遠に栄えあれ」と祈って出撃して行った魂魄に護られて 戦後長きにわたる平和が続いた この平和こそ今日の日本繁栄の基盤であった

この御心を称えることにためらいがあつてはならない

私達は 短い一生を国に捧げ 護ってください くださったこの大地に生きている一人ひとりの命の尊さをかみしめ その御心を永久に伝えていく使命がある 特攻を記憶 戦没者を慰霊 史実を残し 後世に伝えることを目的とした 公益財団法人特攻隊戦没者慰霊顕彰会の趣旨に賛同し 大東亜戦争終結八十一年の終戦記念日にこの像を建立する

令和七年八月十五日

兵庫縣姫路護國神社 総 代 会

兵庫縣姫路護國神社 崇敬奉賛会

姫路護國神社は、世界自然遺産の姫路城敷地内に存在するため、新たな建築物の設置や、一定以上の深さの穴を掘る等

については厳しい制約があり、今回も文化庁までの許可を取る手続きが必要だったとの事で、泉宮司を始め、兵庫縣姫路護國神社総代会(会長 三木英一 様)、兵庫縣姫路護國神社崇敬奉賛会(会長 三宅知行 様)の皆様には感謝申し上げます。



兵庫縣特攻勇士の像



国分第二基地十三塚原特別攻撃隊慰霊祭

評議員 高松真希

令和7年8月15日（金、鹿児島空港からほど近いチェコ村（バレルバレー・プ  
ラハ&GEN）内の特攻慰霊碑前に於いて、第27回十三塚原神風特別攻撃隊慰霊祭が斎行されました。今回この慰霊祭に参列させて頂いたことに感謝をし、報告を致します。

慰霊祭の実施場所であるチェコ村とは、鹿児島県霧島市にある麴・焼酎・ビールのテーマパークで、「バレルバレー・プ  
ラハ&GEN」は、（株）河内源一郎商店を母体とした、きりしま高原麦酒株式会社  
が運営をしています。鹿児島空港の西側に位置しており、戦時中この地域（霧島市と始良市にまたがる十三塚原）には特攻基地として使用されていた海軍航空隊の第二国分基地がありました。

敗戦の色が日に日に濃くなつていったであろう昭和20年3月、ついに沖縄戦が始まります。沖縄戦を援護するために、第二国分基地からも特別攻撃隊、いわゆる特攻隊が沖縄に向けて出撃し、総勢217名の特攻隊員が散華されたのです。それから五十余年が経った平成11年（1996年）に、チェコ村の敷地内に入り口の崩れた掩体壕が見つかったそうです。その掩体壕は入り口から約20メートルがコンクリートで固められており、その奥は葉脈のようにいくつものトンネルを持つ地下要塞網で、その作りから戦時中の海軍の地下基地であった蓋然性が高いと考えられました。

その掩体壕を見つけられてから毎年、従業員が集まり慰霊祭を執行してこれたということです。

その後（株）河内源一郎商店の山元正博会長と、きりしま高原麦酒（株）の山元紀子社長が連名で慰霊祭の主催者となり、今では約100名にのぼる参列者が全国から集う慰霊祭へと発展しており、今回その中には児童の姿も目立ちました。これは慰霊祭のお知らせや案内状に、お子様を連れてきてくださいとしっかりと書かれていることに加えて、従業員同士の協力体制が普段から円滑化されているからと拝察します。従業員の方々がご家族で参列されている姿に、温かさや頼もしさを感じました。

さて、今年の慰霊祭ですが、戦後80年の節目となるため特別企画がいくつも用意され、慰霊祭は11時から13時40分までの2時間40分で、そのあとに直会が用意されておりました。

式次第は次の通りです。

- 一、国家斉唱
- 一、祭主拝礼・玉串奉奠
- 一、「鎮魂の鐘」の除幕式
- 一、戦争体験談
- 一、歌・演奏の奉納
- 一、遺書奉読
- 一、薩摩の秘剣・薬丸流・野太刀・自頭流奉納
- 一、献花

一、主催者挨拶

一、来賓代表の言葉

一、ご遺族代表の言葉

一、閉会

一、連絡事項

特別企画の「戦争体験談」では、大正8年(1919年)生まれの下原邦義さんの話を伺いました。現在106歳の下原さんは、驚くほどしっかりされており、今でも1人暮らしをし、自転車に乗り、炊事洗濯もご自身でこなされているそうです。料理を作りすぎるとご近所に配りに行かれるそうですが、戦争に関する話を始めると、声の力の入り方が変わるのを感じました。

戦時中や、戦後80年が過ぎても抱えていらつしやる辛いお気持ちなど、貴重なお話を15分間伺い、最後に子どもたちから下原さんに質問があると手が挙がり、その中には何日もかけて質問を考えてきたという小学生もいらつしやいました。

歌・演奏の奉納は、福岡の「少年少女みなみ」の高校生・長谷部優亜さんと中学生・羽田朱瑠七さんのお2人とアーティストの樽崎彩さんによる「故郷」「童神」の熱唱、里地帰さんはご自身で作曲された「満月満ちて」を、和湖という和楽器(胡弓)で演奏されました。

遺言奉読では、歌を奉納した学生お2

人が、魂を込めて力強く空と海の特攻隊員の遺言をそれぞれ奉読されました。特攻隊員とあまり歳の変わらない学生さんが、遺言を暗記をし、感情を込めて凛々しく遺言を読まれる声と姿は、参列者の心にしつかりと響いておりました。

薩摩の秘剣、葉丸流野太刀・自顕流の奉納ではチェコ村の従業員で日頃から鍛えていらつしやる屈強な男性陣が、迫力に満ちた演舞を奉納されました。

太陽が痛いほどに肌を焦がす、猛暑の中での慰霊祭でしたが、その太陽も実は慰霊祭のために用意された特別企画なのではないかと思えるような心境に陥りまう。80年前の今時分はちょうど玉音放送を聞いていた頃です。

戦時中は気象情報も軍事機密だったので正確な記録はありませんが、昭和20年8月15日の正午、終戦を知った時の鹿児島は今日と同じく晴れており、とても暑かったということです。

今後の慰霊祭では、児童の参列が更に増えていくように呼びかけを続けていかれるそうです。

思いやりを持たれて日々慰霊と顕彰をされ、心のこもった慰霊祭を斎行されている山元正博会長、山元紀子社長、重森事務局長、そして従業員の皆様様に、敬意を表します。

第十二回戦歿学徒慰霊祭に参列して

評議員 及川 昌彦

令和七年八月二十四日(日)十三時より広島護國神社にて第十二回戦歿学徒慰霊祭が執り行われました。

戦歿学徒とは、学校在学中は徴兵を猶予されるといふ規定がありましたが、戦争の激化により、その猶予が廃止されて徴兵された学生等(学徒出陣)で、陸海軍に入隊し戦死・戦病死・殉職された将兵です。

今年石橋林太郎衆議院議員はじめ海上自衛隊からは呉地方総監部幕僚長、第



拝殿における神事

一術科学校長、幹部候補生学校長が制服で参列しました。

慰霊祭では広島護國神社祭儀部長佐伯浩正権禰宜による祝詞奏上、久保慶子実行委員長による慰霊の詞の言上、巫女舞「みたま慰めの舞」参列者全員による海ゆかば斉唱、ご来賓の方々による玉串奉奠と厳肅に斎行されました。

式の最後に、戦後八十年ということで佐伯権禰宜により熱い挨拶を賜り参列者一同感動しました。

慰霊祭終了後、本殿前において記念撮影をして散会しました。



久保実行委員長による慰霊の詞の言上



終了後の集合写真

全日本空挺同志会高野山慰霊祭

評議員 高松真希

令和7年9月7日(日)、第68回全日本空挺同志会高野山慰霊祭が高野山・一の橋にある空挺落下傘部隊将兵乃墓「空の碑」の前にて執り行われ、新たに7柱が合祀されました。この慰霊祭に参列をさせて頂きましたので報告致します。

高野山は弘仁7年(816年)に弘法大師空海によって開かれた真言密教の聖地であり、比叡山延暦寺と共に我が国の仏教における中心地とされている神聖な領域です。

弘法大師は国家の安泰や世界平和を願って、この地に開山されました。

その高野山で全日本空挺同志会の主催で毎年斎行されているのが、高野山慰霊祭であります。

事の発端は80年前、挺進第3連隊の中村秀雄軍医が終戦を迎えてフィリピンから日本に生還される際に、散華しても御遺骨のかからさえも故郷に帰ることが無かった戦友たちに対して身を切るような想いを抱き、戦友の墓を祖国日本の究極の場所に建立しお祀りをする、と並々ならぬ覚悟を決められたことから始まったと伺いました。

そして昭和31年9月23日に、ついに高野山に「空挺落下傘部隊将兵乃墓」が建立され、中村秀雄氏を中心とする空挺戦友会の方々のご尽力により、「空」の墓碑の納霊除幕開眼顕彰の祭典が斎行されたということでした。

空の墓碑といわれるこの墓石には、ただ一文字「空」と彫られています。これは弘法大師の筆跡と認められる灌頂記より抜粋した「空」の字であり、「空」には三つの大きな意味が込められています。

一つ目は弘法大師「空海」の「空」であること。二つ目は「空挺部隊」の最初の文字であること。そして三つ目は「一切空」の「空」で、利他の精神で散華された戦友の心にこれ以上通じる言葉はないとのお考えによるものです。

主碑である「空」の墓石と共に、その傍らには副碑も建立されており、そこには「祖國日本の彌栄（いやさか）を願ひ後に續（つづ）く者を信じ空挺落下傘部隊将兵の霊は此處（こゝ）に静かに眠る」と記されています。

この「空挺落下傘部隊将兵乃墓」の地には、日本陸軍落下傘部隊将兵の戦死者一万二千余柱の霊名簿が納められており、それと共に、今日その意思と精神を引き継いでいる陸上自衛隊第1空挺団の

隊員達の御遺骨や御遺品も、毎年合祀されております。

因みに高野山は、その周囲を「高野三山」といわれる霊山に囲まれた場所であり、町と霊域は標高約8百メートルの山の上の盆地に広がっております。

そのため高野山を訪れるためには、麓から蛇行した山道を車で往来するか、電車・ケーブルカー・バスを乗り継ぐか、あるいは高野山詣道（空海が切り開いてから江戸時代までの千年の間に山中に数本の参詣道が拓かれ、現在でもそれらの道歩くことができる）を長時間かけて登山するかの手段に限られ、何れも容易とは言い難い道のりとなります。

そこで高野山慰霊祭に参列される方々は、慰霊祭の前日に高野山に入山し、菩提寺である不動院の宿坊で一泊し、ご遺族を囲んだ夕食会、懇親会、そして翌日早朝の勤行を経てから慰霊行進の後、慰霊祭に参列する運びとなるわけです。

この2日に渡る一連の式典には、ご遺族、全日本空挺同志会、来賓の他に現役の空挺隊員約30名を含む、実に二百名前後の参列者が今回おられました。空挺同志会の本部と近畿連合支部で組織された高野山委員の方々が見事な連携と手腕を発揮され、円滑に先導されていらつしやるのが印象的でした。

慰霊祭当日は、朝6時より勤行（不動院本堂・仏前での読経）、9時より不動院前から「空」の墓碑までの慰霊行進、9時30分に慰霊祭開始、10時40分に式典終了と、全ては定刻通りに進められました。



「空」の墓碑へ慰霊行進

ところで慰霊行進とは、慰霊祭開始に向けて、不動院から墓前までの約15分間の隊列を組んで歩いていく恒例の行進行事のことを言います。今年も国旗を先頭にして全日本空挺同志会の旗、御遺骨を抱いた新合祀の御遺族、空挺同志会役員と会員、現役の空挺隊員の順での

慰霊行進となりました。

警察官が交通整備をしてくださるので安全に街の中の車道を行進することができ、そうして歩いてゆく間、沿道にあるお店の店員さんたちが歩道に出て来られては合掌をしてお遺族の方をお見送りされている様子は、とても感慨深いものです。こうしてゆっくりと気持ちを切り替えながら、アブラゼミの鳴き声のみが響きわたる静かな霊場に足を踏み入れ、樹齢数百年の杉の木立ちに囲まれて、慰霊祭の始まりを穏やかな気持ちで待つのです。

慰霊祭の式次第は次の通りでした。

- 一、開催の辞
- （全日本空挺同志会・伊丹侃理事長）
- 一、国旗入場・礼
- 一、黙祷（曲・海ゆかば）
- 一、御導師入場
- （不動院ご住職・山階清隆様）
- 一、合祀者
- （57才から93才まで）の7名の紹介
- 一、御遺骨、御遺品の安置
- 一、読経
- 一、斎主祭文
- （全日本空挺同志会・火箱芳文会長）
- 一、追悼の辞（空挺団長・石原由尊陸将補）

一、納骨

一、御焼香

一、御導師退場

一、ご遺族代表挨拶（吉田様）

一、空の神兵合唱

一、国旗礼・退場

一、閉会の辞

（全日本空挺同志会・伊丹侃理事長）

斎主祭文を述べられた火箱会長はその話の中で、戦後80年が経過し戦後生まれが日本人の半数以上となり、英霊に対する恩顧の念の希薄化が心配されるが、空挺同志会は旧軍落下傘部隊・挺進部隊から受け継いだ「挺身赴難」の精神を後輩に伝える使命を果たし、また、この慰霊祭が英霊・殉職空挺隊員・逝去された先輩同志への感謝を伝える大切な儀式であり、空挺精神を誓い合う場となっていることにも触れられておりました。

その後追悼の辞を述べられた石原団長は、先ほどの火箱会長の話に呼応するよう、挺身赴難の精神は綿々と受け継がれ現職の空挺隊員の胸に深く刻まれていると語られ、続けて、精鋭無比を掲げる第1空挺団は先人が示された恒久平和と繁栄の思いを受け継ぎ、本物の強さと利他の心を兼ね備え、我が国の抑止力の一端を担うことを墓前に誓われておりました。

た。

先に申し上げた通り、弘法大師は国家の安泰や世界平和を願ってこの地、高野山に開山されました。

僧侶と兵士や自衛官ではその方法に違いはあるものの、まさに弘法大師の願いと、陸軍落下傘部隊、陸上自衛隊第1空挺団の隊員の方々の願いは合致しており、全日本空挺同志会が執行する高野山慰霊祭が如何に意義深い場所での慰霊祭であるのかを感じた次第です。



祭壇が設けられた「空」の墓標

## 第六十二楠公回天祭

理事 宮本雅史

岐阜県下呂市の飛騨信貴山山王坊境内の回天楠公社で九月十四日、「第六十二楠公回天祭が開かれた。

祭神は、楠木正成を主祭神に、大東亜戦争末期、人間魚雷「回天」を考案、訓練中に殉職した黒木博司大尉（当時二十二歳、没後少佐）と、大尉と同じように訓練中に殉職した搭乗員、実際に回天で出撃、散華した搭乗員ら百六人、それに三十六人の整備員ら計百四十二人を慰霊、顕彰している。

この日は秋雨前線の影響で大雨に見舞われたが、山内登・下呂市長や中島達也・下呂市議会議長をはじめ地元住民ら計九十二人が参列。降りしきる雨のなか、修祓、献饌、祭詞奉上に続いて、祭主の金沢工業大講師の平泉紀房氏、黒木少佐の甥、黒木尚之氏、下呂遺族会の山下一彦代表らの玉串奉奠が行われた。

最後には

（日の本の御楯となりし君が身は七たび生きて世を守るらん）（兵庫 鈴木智子）  
 （乱れたる世を正すべき導きは君が示せし心なりけり）（神奈川 堀井純二）  
 （純忠の黒木少佐のいさをしを永久に忘

るなわれら日本人）（愛知 栗野成人）

（とこしへの昭和ももとせ少佐の地回天たましひ木霊するなり）（岐阜 松橋慎吾）

（終戦の八十年に下呂に来て楠公祭に心輝く）（岐阜 後藤章嘉）

（たのもしき若人あまた英霊の言の葉ひろひこころ伝へり）（岐阜 橋本秀雄）

（神々は破邪の剣を執りて立つ不屈の姿人ぞかくあれ）（岐阜 横山 泰）

（烈士らの遺せし言葉パネルとし勲語り伝へむ）（岐阜 野原清嗣）

（廟堂粉擾那堪悲 秦楚連衡社稷危念此神州英烈士 長存正気固鴻基）（岐阜 横久保義洋）

（海ゆかば水漬く屍となりし君赤き御魂常永久までも）（岐阜 坂口浩之）

（あゝ回天まごころ生みし山里にみ祭りの灯は永遠に消すまじ）（岐阜 渡辺威）

—と、各地から寄せられた献詠が奉納され、朗詠する声が響いた。

回天楠公社は、黒木少佐が生前、親交があった皇国史観の主唱者・平泉澄氏が昭和三十九年一月、自ら建設地を交渉するなどして創建。同年九月、第一回の「楠公回天祭」が執り行われている。

◇

人間魚雷は、旧日本海軍が世界に誇った九三式酸素魚雷を改造した特攻兵器。直径六十一センチの前半部を直径一メートルの円筒で包み、頭部に魚雷五本分に相当する一・五五トンの炸薬を装填、人が乗り込んで操縦、敵艦隊に体当たりする。艇内は足を伸ばせないほど狭く、豆電球ほどの明るさを頼りに、暗闇を爆走して敵艦に突撃していく。回天特攻作戦は、昭和十九年十一月から二十年八月まで続けられ、特攻隊戦没者慰霊顕彰会の調べは、八十九の搭乗員が戦死し、十五人が訓練中に殉職している。資料によつて異なるが、二人が終戦時に自決しているほか、整備員に加え、回天を搭載した潜水艦とともに八百十二人の潜水艦乗組員も海に散っている。

昭和十七年、日本軍は、ミッドウェー海戦で壊滅的な大敗を喫すると、その後は、波状攻撃を繰り返す米軍の前になす術がなかった。黒木少佐は劣勢を巻き返すため、祖国を救う道を模索する。そしてたどり着いたのが、眼のある魚雷「回天」だった。

昭和十八年四月から翌年三月まで、「鉄石之心」の表題で綴っている日記は、全文、自らの血文で書かれ、日本の惨敗

を避け、国体の破壊を阻止するためには、必死必殺の特攻作戦以外ないという追い詰められた思いが、強く記されている。昭和十九年五月には、同じく全文血文で記した「急務所見」と題する意見書を海軍上層部に提出、特攻兵器の採用を訴えている。

そんな少佐の心の支えとなったのは、後醍醐天皇に仕えた楠木正成の行き様だった。昭和十八年一月一日の「尊皇遺言」では、四枚の色紙に自らの血で、楠公精神に則り、一命を投げ出す決意を綴っている。その思いは、家族や知人ら親しい人にあてた手紙にも多く綴られている。滅びると分かっているにもかかわらず最後まで天皇に忠義を尽くすという楠木正成の生き方と楠公精神は、黒木少佐の行き様にも重なる。

この日は、慰霊祭の後、近くの下呂交流会館マルチスタジアムで、「黒木少佐と楠公精神」と題する講演会が開かれ、湊川神社に奉職する鈴木智子広報室長が、「国体・天皇親政」「己一人の挺身」「奇策智謀の作戦」「大局観・先見力」「志の継承」などの項目に分け、湊川の戦いに臨む楠木正成の思いと、自らを「慕楠」と号すほど正成を敬愛した黒木少佐との共有点などを語った。

黒木少佐は、「嗚呼楠子之誠忠 蓋天下一人矣」で始まる『慕楠記』を書いているが、鈴木氏は「最初の一文を読んだだけで、大楠公が黒木少佐にとって尊敬の念を超えた存在であることが分かる」と述べ、黒木少佐が大楠公になろうとした思いに触れていた。

鈴木氏はまず、太平記などを引用し、「大楠公は、(国が平穏になり民が幸せになるには)後醍醐天皇が天下を治めるのは当然のこと、という根本を理解していた。大局から見た独自の国家観を持っていた」とし、「それは私心のない思想で、黒木少佐も同じ」とした。その上で、「己一人の挺身」として、湊川の戦いなどを挙げ、「大楠公は、自分一人で後醍醐天皇を、国を支えようと腹を固めていた。正成一人がいればいいと自分自身に誓い、自分を奮い立たせていた」とし、「黒木少佐が『鉄石之心』で、『自分一人が背負っていかねばならない。自分一人が日本を支えていく』と書かれていることから、楠公と同じ思いだった。私心はなかった」と強調した。

鈴木氏は、「楠公は自分の理念と生き証を湊川の戦いに求めた。太平記には楠公の生き方が綴られているが、黒木少佐は、こうした理念と生き様を自分のもの

とした。『忘れめや 君斃れなば我が継ぎ 我斃れなば君継ぎくるるを』と詠み、黒木少佐自身、楠公になろうとした」と結んだ。



## 多田野語録

## 「一念の微」

株式会社タダノ最高顧問 多田野 弘

「一念の微」とは安岡正篤師が知人に頼まれてつくった家訓「傳家寶」に記された言葉である。家が栄える永久の計は、かすかな一念の積み重ねによってきまるという意味である。自らを成長させ、家を栄えさせるための真髄であろう。私は「行動は習慣をつくり、習慣は人格をつくり、人格は人生をつくる」と、平常の行動の積み重ねで人生がつくられることを述べてきた。その104歳までの、一念の微を振り返ってみたい。

南方の戦場で21歳から23歳までを過ごした私にとっては、命を脅かされる心配がない戦後の生活は天国のように感じた。しかし、かつて過ごした海軍入隊初期のきびきびした生活が懐かしく、戦後にそれを導入していった。

まず、毎朝アラームなしの5時起床を課した。これが思わぬ効果をもたらした。一日中「気合いのこもった」充実した気持ちで過ごせるようになり、自分をコントロールできた喜びは、他のいかなる喜びより大きいのを知った。その経験から、次々と厳しい課題に挑戦していくように

なった。早朝のジョギング、冷水浴に始まり、続いて元旦の海での寒中水泳は49年間93歳まで一度も休むことなく続けた。なお、この語録である。平成3年、71歳でパソコンを習い、エッセーを記したのがきっかけになった。平成11年12月以降、今日まで約26年間続いている。人間修養の致知誌のテーマに、毎月どう応答するかに頭を悩ませたが、自らの体験を振り返り、真剣に取り組んできた。

これらは苦難ではあったが、後に創造の喜びに変わっていった。これまで自分に課した寒中水泳やエッセーが、何十年も続けられたのは、苦難が大きいほど成長があり、喜びがあることを知ったからであって、意志が強かつたわけではない。懸命に自分の可能性を追求してきたことからの学びと、喜びが原動力になっている。

戦場での3年間は、死を覚悟した毎日だった。ある深夜ふと眼が覚め、「びくびくするな、潔く死ね」という、天の啓示が聞こえてきた。それを、心でなく、魂が受け容れたのだと直観した。以来、私には魂があるのではなく、私自身が魂の存在であると信じるようになった。同時に、地球上のすべての生き物は、宇宙の意志によって生かされているのだとい

う、感謝と畏敬の念で過ごすようになった。

同時に、過酷な逆境体験は私を逞しくし、戦後の行動も捨て身になっていたことが他からの信頼と協力を生み、大きな励みとなった。魂主導の生き方で、「一念の微」を積み重ねることによって、戦後の生涯を素晴らしいものに導いてくれたといえる。宇宙の意志・神・天の導きに、満腔の謝意を捧げたい。

話は変わるが、先日「質」という問題について耳寄りな新聞記事を見た。1つは、日鉄が米国のUSスチールを買収したことである。それは、日鉄の経営手法の「質」がダイナミックな企業経営の原則で経営していたに比し、USスチールの官僚的経営の将来を見据えた米国政府は、買収を受け入れざるを得なかったからだと思う。

2つ目は、トヨタが米国での販売価格の値上げを宣告したことである。トヨタの車が米国の同種の車に比し、品質がはるかに勝っている事を米国政府が認めざるを得なかったからである。

タダノを見てみると、昨年度の売り上げは、創立以来最高の3,000億円、6割強は輸出であり、輸出先のトップは米国である。我が社の製品が米国の同種

のものより品質が勝っている故、輸出が増えているのである。

80年前、日米戦争では、米国の圧倒的な「量」で日本は敗戦を喫した。私はその悔しさがずっと尾を引いていたが、最近のこれらの状況から胸のわだかまりが消えている。もう世の求める世界は主体化しており、「量」から「質」の時代に代わったと言えよう。

これもまた、経済界にとつての「一念の微」と言えるのではないだろうか

多田野語録

「日用心法」

株式会社タダノ最高顧問 多田野 弘

日用心法とは、私達が日常生活を送る上で心を工夫し、よき生活態度を心がけているか、ということである。なぜなら、毎日の過ごし方が習慣となり、人格を形成すると共に、自らの人生をつくっていくからだ。ならばこの際、戦後80年の日々をどう過ごしてきたかを総点検してみたい。

終戦によって、命を失う恐怖が無くなり、解放された自由な空気は、天国のようだった。南の戦場で3年間、明日の命が分からない日を過ごした私は、生きているのが奇跡のように感じられた。

故に、緊張感がない戦後の雰囲気にかもの足りなさを感じていた。それが、かつて青年期に過ごした海軍の、キビキビした生活を懐かしく思い出させた。5分前の精神とシーマンシップの教えである。

いうまでもなく、何事をするにも、5分前に準備しておけという教えだ。兵舎のスピーカーも「〇〇はじめ・5分前」と放送し続けていた。もう一つのシーマンシップとは、「スマートで、眼先が利いて帳面、負けじ魂、これぞ船乗り」である。スマートとは、世にいう、「かっこいい」ことではない。動作が機敏で、やることに無駄がなく、他に迷惑をかけることがないことである。104歳の今でも、暗唱できるほどである。

戦後暫くして、かつて海軍の規律ある生活習慣が懐かしく思え、再現してみようと考えた。その手始めにしたのが、アラーム無しの5時起床であった。この簡単なことさえできないようでは、どんなよい計画も駄目だと思ったからだ。ところが、思わぬ好結果を齎した。早起きた日は不思議に、1日中シャキッとした気持ちで過ごせるようになった。この早起きは40歳から始めたが、104歳の今日まで続いている。

さらに、起床するや否や、外へ駆け出していった。ジョギングが始まったのである。その快適さは継続の原動力になったのはいうまでもない。40歳から93歳まで続いたが、その間、日本各地で開催されるマラソン大会でハーフマラソンに参加した。また、ジョギング後の真冬も行っていた冷水浴に加え、元旦の朝、海での寒中水泳を49年間、93歳まで続けた。この行事の度に、「今年は、もうもらったぞ」と、新年を先取りしたような気分になっていた。

60歳の頃から週末には、40フィートのヨットで海に行った。連休には和歌山の白浜や九州の臼杵まで出かけた。その時、終戦までいた201空基地富高へ行こうとしたが、強風のため引き返した。引き返す決断にも勇気が必要なのを知った。40年間スリルとロマンに満ちたヨットは、体力の限界を感じて昨年手放した。寂寥の感も多々あるが、私の人生をこれほど豊かにし、充実したものにしてくれたものは他にない。やはり俺は海の男だった。

このような戦後の規律ある生活習慣が私の日用心法といえる。その心がけが、私の遅しい意志・豊かな創造力・燃える情熱・安易を捨てるチャレンジ精神をつ

くった。歳を重ねても心が老いないのは、それらが大きく影響したといえる。

### 多田野語録

「人生は挑戦なり」

株式会社タダノ最高顧問 多田野 弘

人生は挑戦なりとは、私たちは幾つになっても挑戦し続け、挑戦を通して可能性を追求する人生でありたいという意味である。間もなく105歳を迎える私が人生にどう挑戦してきたかを振り返ってみたい。

私の人生を決定的にしたのは、海軍での1年間の基礎訓練と、3年余の戦場の体験である。

私が職工学校卒業を控えた頃、工業学校の機械・電機科を終了し、海軍の航空機整備を志願するなら、徴兵義務を1年にするという新制度を知った。

普通3年の義務兵役が1年で済むという好条件に惹かれ、父の内諾を得て志願を決めた。早く社会に出て実力を発揮してみたいと考えていた矢先だった。昭和14年10月、横須賀海軍航空隊練習部に19歳で入隊した。

海軍は殴って教える所だとも聞いていたが、入隊してみると、聞きしに勝る凄

さだった。私たち新入隊者の鈍い行動を見ていた教員から大喝一声、「遅い！気が入っていない」と叱咤され、全員顔形が変わるほどの鉄拳制裁を頂戴した。何の訓練をやらされても、常に隊員の先頭集団にいた私だったが、連帯責任だと制裁のお相伴にあずかった。不条理だと思ったが、これで強くなれるのだと思うと、教員の無慈悲な仕打ちを納得できた。鉄拳に明け暮れた基礎訓練を終えた頃、ふと鏡を見て驚いた。自分と違う顔が映っていたからだ。眼光鋭く、引き締まった顔の逞しくなっている自分を見て、今後如何なる艱難辛苦にも耐えられる自信が湧いてきた。その自信は戦後80年の生涯に如実に表れた。

その後、南方の四島における戦場で3年余戦い、数知れぬほど死ぬ目に遭った。奇跡的にも生き抜くことができたが、その中で忘れられない出来事がある。ラバウル基地での深夜、ふと目が覚めた。耳を澄ますと、心の奥から「びくびくせずに潔く死ぬ」という声がした。「そうだ、自分の死は、家族の安泰・国の平和のために捧げる崇高な行為だ」喜んで一命を棄てようと心に決めた。「自分が魂の存在」なのを知った瞬間だった。

それまでは、激しい弾雨に躊躇していたが、以後は不思議にも、平気で潜り抜けるようになったのである。この大きな変化は、私に命を捨てる決心をさせた魂の働きであるのは間違いない。その偉大な力は、宇宙の生成発展の意志によって、この世に生を受けている魂であることを直観した。

海軍にいた4年余の体験から得た「自信」と「魂の存在」は、戦後80年を挑戦の日々へと向かわせた。戦後始めた仕事を軌道に乗せる幾多の挑戦と相まって、自らに最初に課したのは禁煙と早朝のジョギングだった。日を経るに従い、ハードルを高くしていき、遂には元日の海での寒中水泳に挑戦するまでになった。それは62歳から始め、31年間一度も欠くことなく、93歳まで続けた。

挑戦して継続できた多くの記録は、自力で達成したとは考えていない。宇宙の意志によって与えられた、魂の働きだと確信している。挑戦してきたことによつて、類稀なる素晴らしい105歳の人生をつくりあげてきた。その力を与えてくれた宇宙に対し、満腔の感謝を捧げた。まさしく人生は挑戦である。

水兵時代

特攻隊員へのインタビュー

会 員 中 川 法 宏

沖繩海上特攻4・7 雪風  
水田政雄 大正10年生まれ

駆逐艦雪風

生まれは大阪でね、私は徴兵で軍隊入



りました。昔は3大義務で兵役と納税それと選挙と叩き込まれてましたからね。適齢になったら兵隊検査受けるわけですから。

徴兵検査の時に軍のほうで色分けを決めてあるんでしょうね。これは陸軍だ海軍だと、しるしとったんだと思うんです。どこに行くという書類を役場でもらって

みてみると「海軍大竹海兵団」と書いてあって、これで海軍に行くって初めて気が付きました。その当時、私の周囲はほとんど陸軍でしたからね。ですから周りから陸軍の話聞いて陸軍の予備知識を持つとったわけです。ところが海軍ですから、周りにそういう人がいないんでびっくりしたんですね。大正15年ぐらいまでは海軍は志願兵ばかりだったそうですが、それ以降、海軍の必要性が増したんでしよう、徴兵からも海軍入れる方針に変わったんでしよう。

16年の5月ぐらいに徴兵検査を受けて16年の10月か11月頃、役所から印鑑持って来いって言われていって海軍だとわかりました。その頃すでにシナ事変をやってましたから兵隊に行けば命の保証はないので、無事に帰って来れるということに思ってたかったですね。17年1月10日、大竹海兵団に行きました。わりに座学が多いんですわ。座学をやって試験です。砲術とか水雷とかありまして、軍人としての務め、手旗信号も読めないと食事させてもらえん。最初は「サクラガサイター」って信号来て、一字抜けても解りますが、意味ない文やと見当つきません。10ほどの科目がありましたね。それを一通りやりまして成績付けられるんですね。成績

によってその後の進級が変わってくるんです。船に乗っても、成績が悪いと「お前は防備隊だ！」なんてよく言われました。防備隊言うたら陸軍と同じやないか。やっぱり船に乗りたいたいから、難儀しました。

分隊係として特務大尉につくことになりました。下から上がっていった人は特務が付きます。分隊長っていうと2個分隊があるんですが1個分隊には14班あるんです。240人ぐらいかな。私の所は17分隊です。分隊長付ですから分隊長の部屋を掃除したり靴磨いたりするんです。よかつたのは毎晩釣り床訓練って何秒で釣り床が出来るかを何人もさすんですが、それがなかった。分隊長があるとき「何か希望があるか」と聞いてきました。で、「何か希望があるか」と聞いてきました。で、言っていないか悪いかわからんけど、駆逐艦は家族的だが、戦艦や巡洋艦は人数多いから海兵団と同じでビシビシやられると聞いてましたから「駆逐艦に乗りたいたい」と言いました。配属先が張り出されたとき、駆逐艦雪風に私の名前が出とったから「えらい寒い名前だなあ」と思いました。4月15日終業式すめば出て行って配属になります。成績のいいもんは大和や巡洋艦にいきました。雪風は戦地からまだ戻ってないようなので、そ

の間分隊長の世話をしていました。いよいよ「呉の海兵団へ行け」って言われて、呉の海兵団へ移るとき、分隊長が「よくやってくれた」と大勢の前で感謝の言葉言ってくれました。呉の海兵団に移って、4、5日はおりましたかな。呉の街を行軍したりのおんびりしてましたが、夕食終わったら命令ができて、大慌てで衣囊へ荷物を詰めて波止場へ行ったわけです。そうしたら雪風の内火艇が迎えに来てくれて、これで初めて雪風に乗った。15人新兵で乗った仲間は転勤で最後まで雪風に残ったのは3、4人です。

最初は主砲におりました。新兵教育を一週間受けるんですが、この時下士官が来て「水田はおるか！」と言うので「はい！」と答えたら「お前か！うちに来るぞ！」この方が一番砲の砲術長でした。中班長って厳しい人でした。それで砲術課に決まって一年半ほど勤務しました。そうしたら進級して兵長になったんです。兵長になったら今度は配置がない。私が砲術学校にでも行っておれば話は別でしょうが、海兵団出ただけで技能がないんですから。この時2番砲を降ろして3連装の機銃を前後に2機付けたのでここに行くんです。沖繩に行くときは一番砲の後ろに単装機銃が独立してできたのでそこ

におりました。もとは前部員だったのが、後部が変わって、再度前部の25ミリ単装機銃の配備になった。

### 船酔いの洗礼

一番最初はミッドウェイの陸軍輸送作戦です。輸送船にテントの生地でイカミたいに張って、船が進むと風を受けて、その風が船倉に入るようになってます。人もいれば馬もいますから。

豊後水道を出てしばらくしたら船酔いですわ。ぐったりしとれるかと言うと、気丈そのものにしとらんと殴られます。



撮影時期不明 右が水田さん

士官室の廊下で「お前！酔うとるな！」  
「酔ってません！」そんなで殴られて気  
合入れられます。食事当番もせないけ  
ません。湯気で気分が悪くなるんですが、  
こらえて盛り付けをし、掃除もあります  
から、酔った格好は出来ません。誰も  
見ないこと確認して船の舷の所で吐く  
んですが、出すものでしたら、何も食べ  
てないから胃液しか出ません。陸に上  
りとうてもないんですからあれが一番き  
つかった。

行きしな、前甲板に総員集合がかかり  
まして艦長が「これからミッドウェイを  
急襲する。真珠湾をやったら敵がでてこ  
ないから、敵の向う脛をかつぱらいに行  
く戦いである。別働隊はダッチハーバー  
を攻撃している。我々は敵をおびき出し  
て叩くのだ！」いよいよだなと思ってお  
りましたら、敵のコンソリレイテッドが  
偵察に來たので、初めて配置について撃つ  
たわけですね。初めての戦いですから戦  
死してもええわ。苦しいてかなわん。こ  
こで戦死になるのはいいけど、下手なこ  
として死んだら家の恥ですからね。一つ  
も怖いなんて思いません。それぐらい船  
酔いは辛かった。

戦闘しとる間に輸送船がいなくなつて、  
どうしたもんかと思つていたら、今まで

の速度と違ごうて、全速力で走りだしま  
して、そうしたら長門や陸奥が集結しと  
るんです。初めて連合艦隊をみたんです  
が「勇ましいもんだな」かっこいいし白  
波たてて行くんですから、流石は海軍だ  
と感激しましたね。ところが戦わずに横  
須賀に帰ってきて、湾の中に入らずに停  
泊しとったんですが、帰ってきたら毎晩  
制裁ですわ。みな整列してケツベたをい  
くつもやられるわけです。痛いなんの。  
海から街の明かりを見たら、そこが木更  
津の街でした。忘れもしませんわ。上陸  
させてもらえんのは

### 海軍生活

しかし海軍つてのは一年に一度、ドッ  
グに入らなあかん。その時、三日程度  
の休暇がでます。私も4回か5回ぐらい  
休暇もらいましたね。呉で汽車に乗って  
帰るんですが、駆け出したい気分です。  
「兵隊さん、かけなさいよ」なんて女の  
人でも席を譲ってくれますから。シン  
ガポールに行きました、餡色の子供  
が履く靴なんか売ってました。手持ち

が軍表で50円しかなく、煙草をひと箱2  
円で10箱買って、服の下に隠して持って  
いきました。当時のシンガポールは電車  
も軌道の無いバスみたいなのが走ってい  
て、途中、降りたいところがあると運転  
手の肩を叩いて降ろしてもらおう。店なん  
かでも華僑がやってみて、値切りの交  
渉をしてもまけてもらえんから、その時  
は煙草を出してワニ皮の財布や、子供用  
のゴム靴なんか買って休暇の時、持って  
行ってやろうとね。ラバウルに行ったと  
きは温泉があつて、その温泉の湯をドラ  
ム缶にくんで、それで風呂入ったことが  
あります。3回目行つたときぐらいに、  
夜中空襲をうけました。ラバウルで野菜  
を積み込んだとき、茄子のおおきいこと。  
ごっついのが生るんやな思いましたわ。  
右側から一番メガネ二番メガネと10人ぐ  
らい見張りが付いてましたね。しっかり  
見ておればいいんですが、居眠りしてし  
まうこともあります。私は浦風が轟沈し  
た時、ちようど見張りについてましてね、  
シンガポールからの帰りでしたか、夜、  
火柱が上がりましてバン！と音がしたか  
ら爆弾かと思つて「右何度！」って報告  
したら「配置につけ！」です。あとから  
聞いたら浦風に魚雷が当たつて轟沈す  
わ。駆逐艦の横幅は10メートル位しかな

いから正面から見たら出刃包丁が走つてるようなもんですわ。辛いことばかりでもなくて、古くなつてくると、何か面白いことないかなと、そんなことを探しておりました。ほとんどの兵隊が独身でしたからね。今そこで激戦やつて、それが終わったらみんな面白くないことやつてるんやさかい、深刻な気持ちはあらしませんでした。戦争に慣れてきたらそんなもんになるんでしょうな。どうせ戦死するんだから、クヨクヨしても仕方ないでしょう。戦艦や巡洋艦に乗つてりや、また別でしょうけど、駆逐艦なんか鉄砲玉と同じですよ。自分で突つ込んで魚雷撃つて、退避している間に、魚雷を装填してまた突つ込んで魚雷を撃ちに行くんですから、船そのものが弾丸みたいなものですよ。兵隊も駆逐艦乗りの意識があります。雪風で4人の艦長に仕えました。飛田艦長もええ人でしたが、寺内艦長もごつつい豪傑なかたでした。海戦の時は天蓋から体を乗り出して、爆弾の回避をやつたそうなんです。トラック島でしたか、

「従兵長呼べ！」って寺内艦長から呼び出されたことがあります。下手なことしたかなと思ひながら士官室にはいったら「貴様、従兵長か？ 貴様、酒は飲むか？」どう言つたらいいものか「少々やります」

と答えました。「そうか、酒の爛をうまくやれ」そう言われて出たんですが、爛が温かつたようです。海軍で酒の爛を出すのはまずないですから、いい加減にやつとつたんでしょうな。

信濃も横須賀出るときにいつ出るんだらうと、潜水艦が待ち構えてるんだから夜がいいんだか昼がいいんだか、私も信濃を呉に廻航するのはわかつてました。結局昼出ましたが、信濃が艤装できて間がない時だから兵隊もそこまで乗つとらん。そこへもつて横須賀の工廠の工員もようさん乗つてました。とにかく静岡沖を行つて、和歌山の潮岬沖あたりで魚雷を食つたんです。その時の信濃を引張つて行くこうとしましたが、ロープがプツツと切れるんです。駆逐艦が引張るのは出来やしません。船は出来たからと言つてすぐに戦闘力があるわけではないんですよ。どこに何があるかなんてわからんでしょ。兵隊が半分、工員が半分ぐらいで乗つてたと思うんですが、魚雷を受けたらどこをどう防ぐかを出来んかつたから、傾いてひっくり返つて沈没です。今度は救助に行つたんですが、兵隊と違うのは7、8人固まつて「おい！ おい！」って叫ぶんですよ。今まで戦闘で沈んだ船の救助をやりましたが、兵隊は

こんな言いませんな。黙つて泳いだる。兵隊と工員とでは精神力が違うんだなと思ひました。それ乗せて呉まできて、その人たちは離れ島に移したんでしょ。空母がやられたと知れると具合悪いから。信濃を一戦も使わずに沈めたのは残念でした。

#### 沖繩海上特攻4・7 雪風

いつも行つたら帰つて来れないと思つてます。兵学校出たばかりの準士官が大和から降りるんですよ。白い軍服着て。兵学校出たばかりの兵隊では役に立たんのを連れて行つて死なすより、これからのことに頑張つてもらえば国家的にいんやなどと、当直の時、メガネで見てました。あの人たちはしばらく命が伸びたなど。

呉を出て柱島に行きました。その2、3日前に呉で空襲を受けドンパチやりましたが、その時は係留されとつたせいか、身動きできなかった。今度は自由に動けますから、暴れられるんやから、一つやつたろかぐらいに思つとつたです。いつも深刻に死について思わんかつたですね。常に覚悟しとるんですね。戦争慣れで激戦くぐつてきたら今度はダメだなと人それぞれ思つとつたわけですね。特別、今度こそはもうだめだなんて思いません。

駆逐艦  
雪風



遅いか早いかの違いだけです。  
あの時は従兵長をやってまして、今日は敵さん早々に来るから戦闘配食やろなど思っていました。戦闘配食やと、握り

飯か乾パンです。そう思って主計に聞いたら「普通食ですよ」と答えたので、茶碗や箸や準備させとったところに敵が来たわけです。戦闘配食にしとりやええのに思いながら配置につきました。

敵はどんな編隊組んできます。我々をこえて大和めがけて攻撃かけるんですが、私らはその防壁をやるんです。敵の攻撃も片方から集中して魚雷撃ちます。そこに弾幕を張るんですが、大和を見ると茶色い煙はいて、煙で見えんようになりたり、時には艦橋が、時にはマストだけ見えるんです。ああ、戦つとるなどわかるんです。こちらも爆弾降ってきます。私はその時一番砲の後ろの機銃におったわけです。一番砲が旋回いっぱいにして後方を撃ちよると砲が目の前にくるんです。それで砲を撃つと閃光でまつ毛が焼けてタコの足みたいになって、瞬きすると上と下で引つかかるんです。

至近弾をうけて、船が動揺しますし、やられた思うし。私は単装機銃にいたんですが、この時膝ついたんです。甲板に海水が流れてきました。「やられましたか！」銃手が言うので「やられとらん。起こしてくれ！」起こしてもらって戦いました。単装機銃は3人で一人は射手、もう二人は弾込めです。25発入りの弾倉

を交代で装填していくんです。雨も降ってましたが、上向いて撃つと、口の中が塩辛い。服を見ると所どころ、国防色みたいなシミができてるんです。至近弾食らった時、爆弾の薬品と海水が混ざって降ってきたから、こんなに染まったと思うんですが、ようやられんかったな思っています。

グラマンが後ろから来るんですが、それを追っかけて撃つんですけど、飛行兵が白いマフラーなびかせながら行くんですわ。悔しかったですね。こんな近くまで来てなめとるなど。

駆逐艦はガブるから狙って当たるもんじゃないんですが、弾幕を張って相手を怯えさせるように数撃つんです。駆逐艦の12・7センチ砲も対空砲の時は時間調整して、一定の距離行くと爆発するようにするんです。レイテ沖だったか、大和の3式弾が敵の編隊めがけて炸裂した時は、先頭の飛行機が何機も落ちました。「流石大和だな」思いましたよ。敵の進路かえしましたから。だからまともに行つたらやれますけど、真上まで来てしもたらあきません。

機銃を撃つてますから戦闘中は周囲の事は気になりません。自分の任務を一生懸命果たすだけです。周りを見ようと思

えばできるんでしようけど。次の攻撃の波の合間に「何番機銃がやられたらしいぞ」「誰がやられたようだ」と噂が耳に入るぐらいですな。「ああ、やられたのか。こっちはやっつたろう！」って復讐心がわいてきます。

戦闘中でも沖繩に行かにならんという気は皆がもっています。2, 30機の編隊が攻撃してくるんですが、何回、どれだけ来たかはわかりません。

私は前甲板の高いところにある2機の単装機銃におりましたが、後ろの後部甲板から中甲板にかけて単装機銃が配備されておりました。そこに配置されていた大長つて奴が顔面やられて居住区で寝とつたですわ。同年兵ですからやられたつて聞いて、佐世保へ戻る途中、見に行ったら包帯はしてましたが顔を血で真っ赤にして、イビキかいて寝とりました。

戦闘が終わって、磯風が航行不能になると。燃えてるわけでもないけど機関が故障とかで動かない。それで近寄って行つたんです。そしたら内火艇を降ろしてつてことになるんですが、降ろしてる間にまた敵が来るかもしれませんので雪風から足場の板を渡して動ける者をこっちへよこしたんです。ですからほとんど全員救助できました。この時は大和の乗

員の救助もしとつたです。磯風のほうが元気な者が多かつたです。

磯風から離れて処分する言うので、大砲で処分しようとしたが結局、魚雷で処分したわけです。それで戦後、本で読んだんですが、艦長に大本営から「佐世保へ帰投せよ」と連絡が来ていたので、磯風なんかを救助して帰つたわけで、その電信がなかったらやられたのをほっといて、沖繩に突っ込んでいったでしょうね。大和が沈んでも行かないかんわけですが、救助して帰投です。周りを見たら



坊の岬沖海戦での大和（右上）手前は冬月

ら初霜と2隻しかおらんのです。しかたないからこの2隻で佐世保に帰つたんですが、あくる日の朝、涼月が後進で戻ってきましたわ。よう戻って来たわなあ。

### 宮津湾の戦い

終戦15日前ですわ。敵機の攻撃を受けて初霜と一緒に宮津の湾の中、グルグルしました。こんな狭いところ走り回ってまずいぞ、と思っておつたんですが、初霜がたまらんくなつて、湾の外に出かかつたんですが、警戒警報が出とつたんですね。敵が機雷を撒いとつたそう。そこで初霜が触雷して乗り上げて、結局、無傷で残つたのは雪風ぐらいになりました。

宮津にいるときは天橋立を行軍してみたり、街に上陸したら、大江さんと言う家に泊まるように連絡が行つて、迎えに来てもらつていたりしました。

この時の戦闘で負傷したのは両足です。片方は指先を3か所断片が通つた。もう片方は足の後ろから甲へ抜けたんです。3連装の機銃長をして、少し高いところで、機銃が回るとき一緒に回るところに立っておりまして。的針矢言うて、敵の進路を読んで微調整するんですが、これを握ってました。バーン！やられたとき下を見たら靴が破れて指先が白く見えまして、みるみる血が出てきました。

「やられた！」思つてへたり込んで包帯で縛つたわけです。この攻撃で、若い志願兵の左足を落として、その断片が指先をかすめたんです。この兵隊は戦後、垂水におりましたが、大腿部から切断で、3年ぐらゐ前に死にました。

包帯で縛つたものの、まだポタポタ足の後ろから出てるんです。「こつちもやられとるな」思つて「おい！包帯くれ！」包帯をもらつて縛つて、その横にへばつて「来とるぞ！」指揮しとつたんですわ。4メートルぐらゐ高いところにいましたから竹製の担架で巻き寿司みたいにまかれて、ロープで降ろされました。機関室の個室の床へ寝かせてもらいました。そのあと、砲術士の少尉が来てくれました。恩賜の煙草に火をつけてくれました。あのうまかつたこと。朝からちつとも吸つてなかつたですからね。あれは忘れられませんな。「元氣出せよ」言うてくれて、夕方ですか、ダイハツが陸上から迎えに来てくれ、何回か往復してたんですが、最後の便で私が乗せられました。3、4人が床に寝かせられましたわ。宮津の公会堂に運ばれましたが、ここで国防婦人会が世話してくれました。足がだるくてかなわんだけど「これを枕にしなさい」って綿の入つた防空頭巾を足に噛ませてく

れましたが、朝になつたら血まみれです。「すいませんでした」「いいですよ」そうしているうちに下宿の奥さんが飛んできてくれて「しつかりしなさいよ！主人と代わりますから」言うて帰られました。そうしたら舞鶴の海軍病院から病院車が来たので担架のまま病院車で運ばれましたから、ご主人と会つてないんです。戦後、訪ねて行きましたが、奥さんは旅行で留守、旦那さんは宮津の議会で議長までされたそうですが、すでに亡くなつていました。

病院言うても山を掘つて作つた素掘りの洞窟です。水滴がポタポタ落ちるんです。そこに薬品の木箱を枕もとと足元に置いてね、担架をかけて寝てるんです。洞窟の両端に負傷者が寝かされて、真ん中が通路です。晩に、看護婦に起こされて「どうして食事しないんです！」見たら枕もとに白粥と梅干置いてあつたんです。「熱もあるし食べたくないんです」「食べないと死にますよ！食べさせてあげます！」忙しいだろうに御粥を私の口に流し込むんです。そうなつたら食べなしゃあない。熱出とつたけどおいしかったですわ。それ食べて3日か4日、おりましたかな。今度は城崎の旅館が分院の宿舎になつとつて、城崎の山本屋つて旅

館に行きました。ここは今もあります。この山本屋の3階に寝かされて、そこで終戦になつたんです。負傷した者も帰りたいですから動ける者は帰つて行きましたが、私は両足やられてますから動きがとれへん。仕方ないわ思つて、もしアメリカ兵が来たらタダじゃ殺されへん、やつたるぞ！思つてましたわ。半月か20日ぐらゐおりましたかなあ。今度は鳥取の日赤病院に転院ですよ。城崎の駅まで担架で4人がかりで行き、鳥取の駅から大分とありましたな。年末ぐらゐに舞鶴の病院が国立病院にかつたから、帰れつて言われて、このころ薬もないから2日、3日ごとに乾いたガーゼを換えてくれるだけです。これでもほつとかれるよりましです。ほつとくと蛆虫がわいてしゃあないんですよ。変えてもらえればやれやれです。傷口も表面は良くなつても中身は良くなるんです。傷口が破けてくるんですな。手術を受けてやつとよくなりましたが、翌年の7月やつと帰ることができました。

ガダルカナルの引き上げに3回行きました。2回目に、本艦から指揮に行つたものが戻つてこんです。3回目に行つたときに戻つて来たんですが、地上にしばらくおつたせい、マラリアにかかつ

て、そのまま退艦です。前線まで来とるから、内地から補充することもできへんので大和から、この後任に豊田兵曹が来ました。大和におりや、トラック島あたり鎮座して安心だけど、人間の運命とは不思議なもので、大和は沈んで、雪風は残ったわけですから。



靖国神社で戦友たちと。右が水田さん

兵とバツタリおうて「おっ！元気か！」言うたら「いや、実は泳いできたんや」と言う。武装商船に乗っててやられて、泳いで助かったそうです。

大和もみすみず、勝ち目もないのにやっ たなんて言いますけど、私らにしてみたら真珠湾に戦利品として浮かしてたら、よけい恥ずかしいんですわ。残念でかありません。死んだ人には気の毒やけど、死に際をこさえてもらったんですな。

実役3年11か月、ポツダム一等兵曹で終わりましたが、雪風と言うより、駆逐艦乗りなんだという意識ですね。訓練を受けるときからの艦隊乗りの誇りみたいなのがありますね。

インタビュー日時  
平成24年1月29日

参考文献

- 世界の艦船 日本駆逐艦史  
海人社
- 雪風ハ沈マズ 豊田穰  
光人社

陸軍特攻 隼回天隊  
橋本正雄伍長

少年飛行兵第15期生

僕の出身は埼玉の利根川の手前ですね。中島飛行機製作所に勤めてたんですよ。これが16年頃、中島飛行機株式会社になっ



大津教育隊にて 最上段右から5人目が  
橋本伍長

たのは。しょっちゅう利根川の上に飛行機が飛んでるんです。91式戦闘機らしいですけれどね。昭和8年頃はツェッペリンの飛行船が飛んできたんだもの。そんな時代でした。家から2キロ離れた利根川沿いに海軍の飛行機が墜落したのを見たこともありません。この方は九州の知覧の近くの人で、その後慰霊碑が建ちました。僕は3人兄弟で親父は百姓やっています。貴二人は中学行ってなかったんです。僕は自分の食いぶちは自分で稼げと言われてまして親に「中学行きたい」と言ったら「金がない」です。小学校卒業するころ、遠い親戚の先生、卒業の時の先生なんですけど、「ここでうんと勉強したら将来、将校になれる」なんて言うんです。それで集まった人は山梨とか群馬とかとんでもなく遠くの人ばかりで埼玉は私一人です。簡単なテストがあつて結果、航空工廠に向したんです。ここは旧陸軍では唯一のメーカーなんです。ようするにそこで3年間教育すると技手になれるんです。これが16年の春の事です。その年の12月に大東亜戦争が始まった。技術者養成コースに乗ったもの。「こりや、飛行機作つてより乗る方だ」少年飛行兵の試験を受けたいと人事担当の航技大尉に申し出たら「よしわかった。

陸軍に志願するなら許可する」ってことで翌年2月、試験を中央大学で受けて合格しました。東航入校が17年の10月だったので将校に相談したら「どうせ学校に行くんだつたらそれまでここにいろ」って言われたので9月まで仕事させてもらって退職し10月に東京陸軍航空学校大津教育隊に入校しました。大津は6区隊あつて僕は第2区隊です。

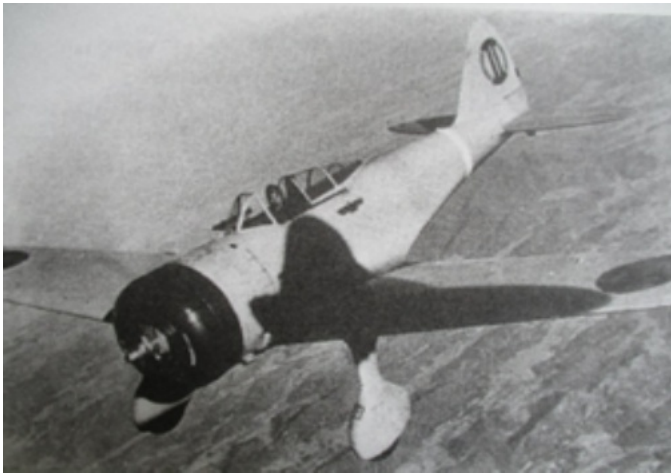
#### 訓練の日々

東京陸軍航空学校の時は1年のうち10カ月ぐらいは普通の基礎訓練なんです。午前中は学科、午後は体育か兵隊の教育ね。その後に適性検査を受けて操縦、通信、整備に分けられたんです。15期はみんな飛行機に乗るつもりで東航に来たのに通信や整備に回された者は怒っちゃつて大騒ぎに行った者がおりました。1344名で東航の大津教育隊に行った者が1150名です。僕は東航教育隊に行き、卒業のとき操縦に行きました。東航を卒業して操縦に行った者は720名です。5月に卒業して熊谷飛行学校に行きました。僕ら大津教育隊は1148名が卒業して690名が栃木の宇都宮飛行学校に行つたんです。僕ら230名は19年4月に陸軍上等兵として宇都宮飛行学校那須野教育隊に行きました。大津

ではやらなかったけどここでグライダーをやりました。これも大変なんです。30人ぐらいでV字にロープを引つ張つて飛ばすんですが30人で引つ張るつてことは30回に一回しか乗れないんですよ。そのうちに均等に引つ張れなくてグライダーが傾いて変な方向に飛んじやったりしてまっすぐ飛ばない。これが終わつて赤トンボ(95式練習機)に乗つて訓練です。この時陸軍上等兵です。普通二年かかるところを短縮で一年半で上等兵になりました。いままでは赤タンで陸軍生徒だから兵隊じゃない。そうすると赤トンボの訓練中に事故があつても恩給の対象にならないんです。だから兵隊になつてからやつと乗れたんですね。最初はなんてことないんですよ。乗つかつて黙つて見てればいいんです。そのうちに卵を握るようばいステイクを持つて引けとか押せとか旋回だとか。赤トンボは軽いし350馬力だよ。ただ、風にあおられちゃうからおつかないです。これで宙返りや横滑りも全部これでやりますし、双発に行く者も基本は赤トンボから始めます。一人の助教に6人について訓練をします。4カ月ぐらいの課程なんです。2カ月ぐらいたら他の班でも話が違ふんです。「俺の所は編隊ばかりやつてるよ」後で聞

いたらその連中は重爆に回されました。それから「うちが計器飛行をやっています」先を見えないようにして計器だけで飛行するんですが、そんな連中は偵察です。僕らはそんなこともないし編隊飛行も基礎としてはやりますが上昇反転や宙返りなんかやりました。これが戦闘なんです。操縦全体の50何パーセントでした。残り重爆、軽爆、偵察と分かれたわけですね。戦闘が多いのは消耗品だから。今でも思うんですけど戦闘は一人だから個人の責任なんです。重爆なんかだと最低8人乗るでしょう。操縦のミスで8人みんな死んじゃう。一蓮托生ですからね。

赤トンボの訓練を4カ月して終わったのは19年の7月の末、次は97戦を12月まで訓練です。スピード出ますし安定してますよ。脚が出っぱなしだから機体が浮くんです。隼の場合は脚が仕舞えるから慣れてくると離陸してすぐに脚をしまつてフラップを上げようとするんです。そうすると機体が沈むんです。いったん機体が沈んでからスピードが出るんです。僕は97戦が慣れてるせいか安定がよかったですね。隼も慣れれば脚の抵抗がないからいいんだらうけど。隼もⅡ型とⅢ型があった。Ⅲ型はⅡ型より翼が片翼15センチほど短いⅠ型は二枚ペラです。排気もⅡ型



陸軍97式戦闘機

から単排気で少しずつちがいます。12月に隼に移行しましたが全部を切り替えるわけじゃないから97戦も併用して乗ってましたね。第一線では隼の部隊と二式戦（鍾馗）の部隊とあって二式戦は翼が短いし航続距離も短いし操縦も難しい。四式戦（疾風）が出てくるとこれが1800馬力で隼Ⅲ型（1150馬力）よりもいいですね。赤トンボの時は助教と二人で乗って伝声管で助教の命令が伝わってきますが隼になるとレシーバー

になります。片方の耳は助教と、もう片方は死んでます。要はエンジンの音が聞こえるようにしてあるわけで、その時その時で耳を使い分けるようにしました。

中国大陸へ

97戦に乗ったのは大陸に行つて保定飛行場に行つてからです。保定は済南と北京の真ん中ぐらいです。昔の三大城壁つて言われたところです。すごい城壁があつて当時、単独で街の中に入らなかったです。治安の問題で。仲間と出かけることはあつても城門の中には入れない。門の所に憲兵がいて「近寄るな！」つていうんです。部隊の宿所の風呂焚きの爺さんは中国人。4つぐらいの子供連れて仕事してたんです。この爺さんにタバコあげるとその子が吸ってるんですよ。びっくりしちゃった。夜寝るときに布団の中にサソリがいて仲間が刺されたことがあります。僕は直接見なかったけどいるんです。刺されても毒性が低くて腫れるぐらいです。もうひとつ、同期の者が飛行場のすみで洗面器を拾ってきたんです。みんなが羨ましがってね「いいもの拾ったな」なんて言つて使つてたんですが後で聞いたらオマルだよ。笑い話だね。知らないって強いね。

拳銃と時計は必ず着けてるんですが記

録版、ペンチ、フォークの3つは三種の神器でね、朝、飛行場に行く夕方まで飛行場にいますからね。食事は弁当などでフォークで食べます。飛行機に乗ると航空糧食つてのがあるんです。けど実際に訓練中に食べるってことは無かったですね。整備兵や部屋の掃除当番に連れてやりました。

町から人力車で飛行場まで帰って来て金を一円札で払う上等兵がいて、金を渡すんだけど少なくて渡すんです。普通10円札が一般的な時代ですけど一円札で払って自分は飛行場に帰ってきちゃう。そうすると車夫が金が足りないって大きな声で騒ぐんですよ。上等兵の班長が「あいつは常習犯なんだよな」って言ってました。

部隊の中にいたら酒保もあるし安いです。外で食事なんかできないですよ。高くて。終戦時、外でちよつと食事をしたら300円です。腹いっぱい食おうものなら1000円です。インフレで子供が10円札を束で持つてるんですね。特攻任官してからの給料が40円で飛行機に乗ってるから加棒でさらに40円ついて80円ぐらいです。

7月の31日だったか8月の1日だったか、石家庄の飛行場にいたんですが「お

い、今晩は赤飯だぞ。僕らが来たからかな」なんて喜んで食堂行ったらコーリヤン飯ですよ。赤いから赤飯と勘違いしたんだけど、誰かが空中勤務者はコーリヤン飯なんか食わしてはいけないんだって言ったんでしょう。すぐに白米に戻りました。

訓練では制限着陸をやりました。飛行場の中に50メートルぐらいの枠を書いてそこに車輪を付ける訓練もやりました。高くても低くてもダメ。電柱より低く飛んじやって脚に電線引っ掛けたまま着陸した者もありました。

8月の中旬になると夜は寒くて眠れないんです。昼は30度ですから温度差があるんです。1000メートル上昇すると6度温度が下がります。3000メートルだと18度。地上は30度でも上空では12度です。だから冬場は低め低めに訓練します。エンジンも回しておかないと冷えちゃう。そうするとエンジンにパワーが出ないから上がれないんです。それくらいの温度差がありました。

#### 隼回天隊編成

本来なら隼に行つた者は20年の1月から3月にかけて卒業するはずだったんですよ。ところが燃料がなくてね。松林にガソリンが入ったドラム缶が何本も隠し

てあったんだけど空襲があつて飛行場まで運べなかつたわけ。訓練中の攻撃受けるようなことはなかつたけどね。

隼の課程が終わつて20年の5月の初め、僕らの同期飛行兵51名が内地に帰つたんです。要は内地防空要員や特攻要員です。

しかし僕ら数名には何もありません。こちらからの特攻要員だったんですね。ほとんどが内地に帰つて空っぽになっちゃつたけど、そこらから特攻訓練です。上からの命令で特攻訓練を二カ月やれつて言われたようです。3月に隼梓弓隊として将校3名、同期飛行兵9名で特攻隊編成されて出陣していき、今度は内地に51名が帰り、残つたわずかな飛行兵だけでいったいどうするんだって話をしてましたよ。特攻隊による戦果はあがつてると話には入つて来てました。隼回天隊は部隊の副官が命名しました。隊の結成の時に命名されたんですね。一区隊と二区隊とあつて僕らは二区隊だったんですが一区隊で先に特攻編成やつた時、僕らにお呼びがかからなかつたから大ゲンカですよ。でも区隊長が特攻隊長だから自分の部下とるのは当たり前だよ。

僕らがやつたのは敵艦に捻り込みで突つ込む訓練です。模擬爆弾積みでの訓練も二回ぐらいやりました。その時は飛行機

を特攻仕様にしちやったから機関砲、無線機は取っちゃう、座席後ろの防弾鋼板取っちゃう。そうすると機体が350キロぐらい軽くなるから250キロ爆弾を積んでも差し引き100キロのおつりが来ます。飛行場の上空、高度5メートルから10メートルの低空飛行の訓練では失速寸前の態勢になります。突っ込むときは前かがみの姿勢になって速度が出ますよ。4月頃から突っ込む訓練をやってきましたが「俺たちは内地から出るのかどこから出るのか」って話になって上官に聞いてみたら「お前らに教える義務はねえんだ」って言われましたそんなことがあって5月に内地に51名が帰っちゃった。もう一つの隼必殺隊は隊長が決まらなくてウロウロしてます。僕は隊長も決まって少飛3期出身の将校さんについて訓練してました。

6月5日、伍長に任官しました。我々は特攻に出す、出さないにかかわらず、特攻隊として編成されたら予算が出るんですね。予算が出るから訓練しろ、もし命令が出たらすぐに出せるようにとも考えもあるようです。だから正式に特攻隊としての振武とか誠とかの番号はもらってないんです。

僕らの同期で振武111, 112, 1

13特別攻撃隊として20年5月頃に突っ込んだのがおります。陸軍の特攻隊は振武400いくつで止まっていますけど、北支に7隊ぐらいありました。内地にいた上層部も終戦の時に書類を燃やしちゃったでしょ。464隊は新しい資料の中に残っていて465は近くから出てるんですが記録が東京にないんです。110攻撃隊は訓練中、事故で3人ぐらい殉職しちゃって突っ込んだのは6人です。

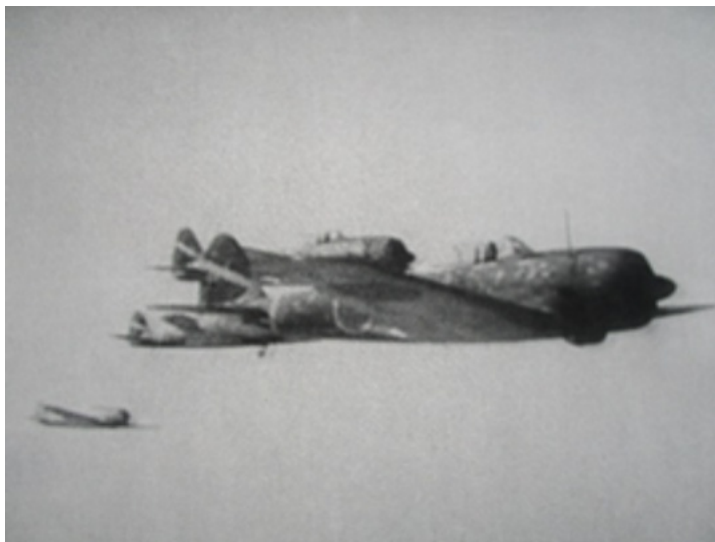
### 金浦にて待機

7月25日に金浦に85戦隊があるからそこに行けって出陣式をやりました。唐山を出て奉天北陵飛行場へ行き一週間ぐらい待機して新義州飛行場に前進して8月9日に平壤飛行場に前進しました。そうしたら同期が掩体壕にペラ引っ掛けて壊しちゃいました。

特攻訓練中に滑圧計がゼロになったことがあります。海岸ぞいで大きなタンカーを目標に特攻訓練していたんですが訓練終わって基地に帰ろうと編隊組んだんですよ。見たら滑圧計の数字がゼロになってるんです。ところがエンジンの調子は何ともない。編隊の前について翼を振って異常を知らせ、ほかの機と離れて不時着できる場所を探したんです。エンジンの音は正常だけど下は湿地帯だから焼

き付いたらどうしようかハラハラしながら飛んでました。そうしたら天津の飛行場が見えたんで高度2,300メートルぐらいまで高度を下げたら飛行場に吹き流しが着陸方向だったんで地上に不時着信号を送って着陸しました。ここで原因を調べてみたら滑圧計とエンジンを調べるパイプに穴が開いてるのが見つかりました。そこからオイルが漏れてたんだね。それで交換したら異常ないってことで飛行場の将校さんが「異常なし。これからP51が来るかもしれないから気を付けて帰るように」そう告げられて離陸し帰ってきました。

平壤飛行場から今の金浦空港に行く途中、オイル噴いちゃってどうしようもなくなっちゃったんです。大洞江沿いに99双軽が並んで駐機してて、そこに不時着しちゃった。接触しないように右へ右へと機首をひねって何とか止まった。原因はエンジンの所に50リッター入るオイルタンクがあるんですが、タンクが温度で膨張しちゃってキャップが飛んじやった。風防にオイルがついて前が見えない。将校に怒られて「何てことするんだ！」って。そう言われても仕方ないんだけどね。指揮所に帰って横になってたんですよ。そうしたらその将校が来て「おい、お前のために



死ななくて済んだ」そういうんだ。「何ですか」って聞いたたら。「あのまま予定通りに金浦に着いたら敵のP51の攻撃の前後だった」僕が途中で不時着しちゃったから助かったって。もともと、僕ら隼回天隊と95中練を特攻用に黒く塗ったカラス部隊とあつてまずカラス部隊を見送ってから僕らが上がったんです。僕は3番機でした。結果、僕のエンジンオイルが

噴出して不時着して予定より遅れたからみんな助かったんです。予定通りに到着していたらP51の攻撃真つ最中でやられた。13日の攻撃で金浦空港では将校や僕らの先輩が5人死んでるんです。いつ行くのかってことですが「お前らは九州要員だ！」って聞かされました。結局生かされることになったんです。

### 終戦

14日に金浦に着いたでしょ。一晚経って10時までに航空軍司令部へ出頭しろって言うから7人で行ったわけ。朝鮮大学が第5航空司令部だったんです。司令官室があつて作戦情報室がある。作戦室に佐官クラスのもの付けたのが出たり入ったりしてるでしょ。こんなに忙しい所かと。司令官と副官に着隊の申告したんだけど、その間にも佐官が出たり入ったりしてるんです。司令は中将だったけど「暑いんだから暑さに負けずに頑張れよ」ってそれだけだ。それで終わって作戦室を出たでしょ。そうしたら司令官の副官が「早く飛行場に帰れ！」玉音放送があるってのは将校は聞いてたんだろっけど僕には全然わからん。飛行場に帰ったら無線室が地下にあつて「天皇陛下の放送を聞け！」って言うけど中は将校でいっぱい入れないんですよ。暑いしね。

地下道の隅にいて何が何だかさっぱりわからねえんだ。勝ったのか負けたのか。近くに日本航空のビルがあつて2階階段の所にアンペラ（ゴザ）がひいてあつてそこで待機してただけけど何にも連絡来ないんです。そうしたら森の方からドーン！ドーン！って音がするの。「何だあの音は？」って、整備の兵隊が飛行機壊してるんです。火がチヨロチヨロ見えるんですよ。

こっちは何も情報ないから宿舎に戻ったんですが、負けたんじゃないかと思いました。16日夕方に竹田宮様が輸送機で朝鮮軍と北支派遣軍に戦闘行動を停止する大本営の命令を持ってきたんです。17日朝、将校が二人、離陸していききました。その後、仁川沖でガス欠で墜落したらしいんだけどね。漁師が見たって。そんな情報が入ってきました。

18日の朝、「おい、どうせだったら内地に飛んじゃおうか」なんて本気で考えて飛行場に行ったの。そうしたら脚もペラも外しちゃってるからこりやダメだっと思いましたね。そうしたら23日まで飛行場を明け渡すって連絡があり20日には飛行場は空っぽになりましたね。

20年の10月7日に復員するために釜山に行きました。写真なんかも燃やしちゃつ

て僕らが特攻で行ったら家に送ってくれて部隊に46円ぐらい預けてたんだけど、それも帰って来なかったですね。

**映画「俺は君のためにこそ死にに行く」**

知覧で祀られているのが1036柱なんですよ。このうち、331名が少年飛行兵出身なんです。少年飛行兵出身で特攻戦死した者は全体で457名なんです。13期、14期、15期で310名が突っ込んでます。1期生も一人おりますし、キャリア積んだ猛者もおります。特攻の責任者を立場上出さなきゃいけない。誰もいなかったら自分が行くしかないでしょう。

「俺は君のためにこそ死にに行く」って映画の時、隼を3機作ったんです。まともなのが二機、胴体と翼だけのを一機です。そもそもこの映画にかかわったのは池田さんって知覧の特攻の誘導を3式戦でやってた方が居まして、その人が今度こんな映画があるって聞きつけたの。じゃ、誰を応援させるかってことになりました。少飛会解散の時、代表やってた12期の岡崎さん、最初の頃、特攻隊編成された中村さん、僕はその時事務局長やってたんです。それで手伝えってことになりました。「この時はどうだったんですか」って、特攻出撃の話を監督に聞かれました。「その時は来てないですよ」映画ってのは監督のイメージになるんで

は何度でも撮り直しますよ。監督が責任もって映画作るんだから僕は口出さなかったけど先輩はまじめだからいろいろ注文付けた。ロケの時に意見はしますがそんなシーンはダメとかは言えないですよ。所作指導ですからね。80名から100名その他大勢の基礎訓練のシーンでいざ本番って時に助監督から「全員丸坊主だ！」って全員が丸坊主になった。僕は彼らに言ったんですが「この中で監督に目をつけられたら将来出世するんだから一生懸命やれよ」中には体力がなくて普通の訓練ができないのがいたし脚絆の巻き方できないし、そんなの訓練なんだから出来なきゃダメだと。若い連中も僕らの言うことを聞いて一生懸命にやってくれました。

特攻隊もそのレールに乗った以上、嫌とは言えないでしょ。飛行兵だもん。志願してくる馬鹿もいるってその一人なんだから。特攻隊だったことが戦後、負い目だとか感じたことは無いですね。黙ってりゃわからないでしょ。それに同期会いったらみんな知ってるんだから。運命なんです。早く97戦に乗せられて訓練した者、2式高練で訓練した者、人生の流れに巻き込まれる時の運命なんです。仲の良かった同期で戦死した者もおりますが不遇な人が多いね。お参りに行つ

たら兄貴の奥さんなんかが墓守してて「運が悪かったから先にいったんだ」なんて言うんです。隣でそんなこと言われたらおちおちお参りできないですよ。死んだものと生き残った者どで生き残った者に対しての恨みがあるんですよ。同期生100人中10何人しか残ってないけど、長生きとは何ぞやって考えるね。

インタビュー日時

平成2年5月19日

参考文献

靖国の途 Uターン記

橋本正雄 私家版



橋本正雄伍長 (大正15年生)

ト號空中勤務必携(2)

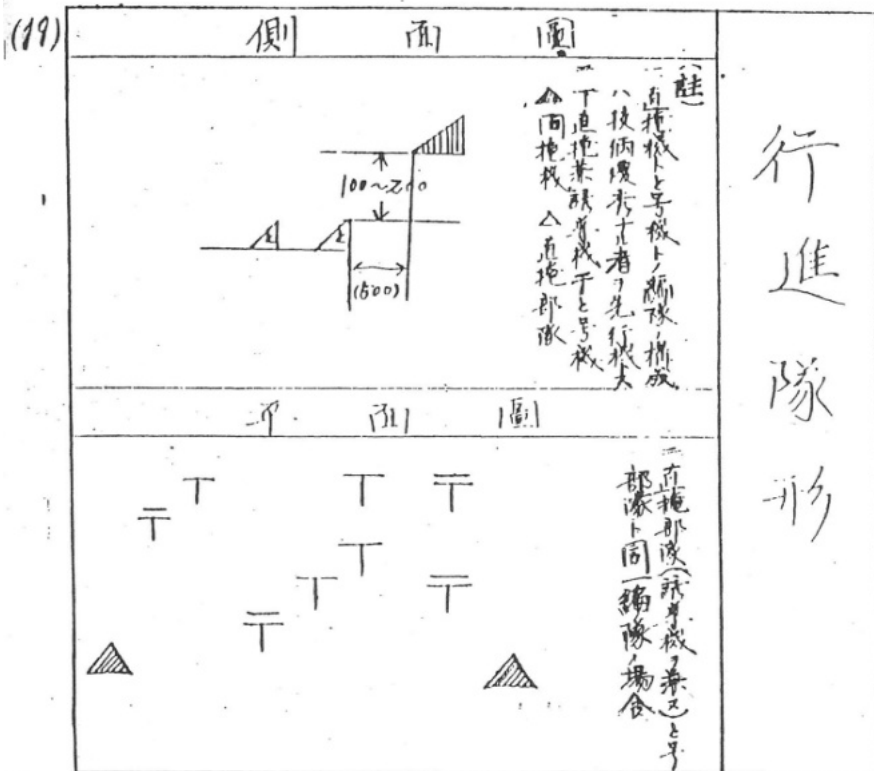
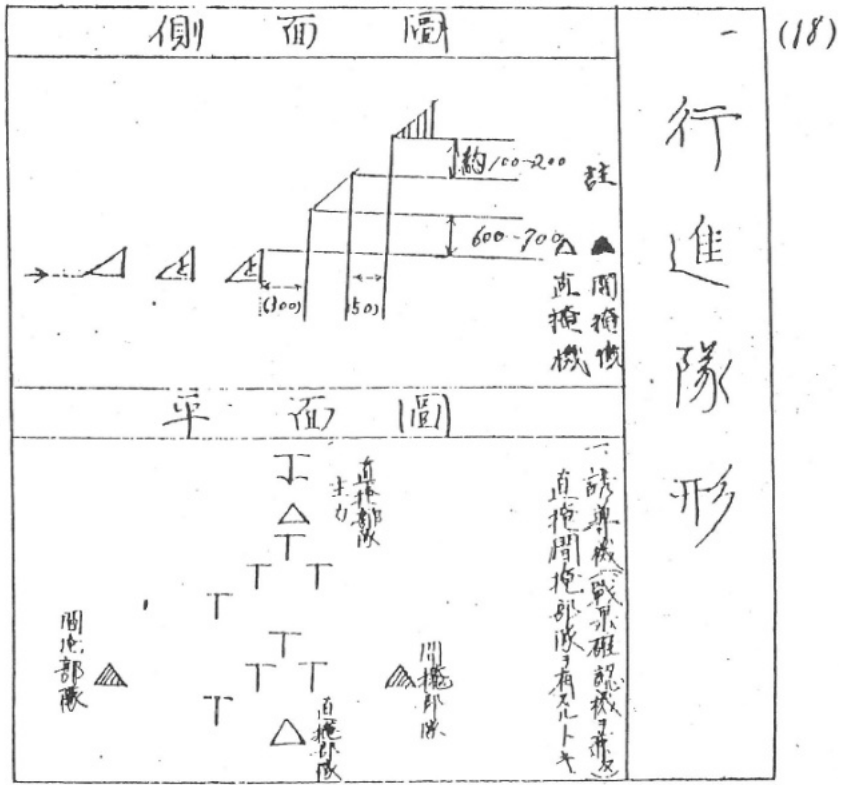
編集長 金子 敬志

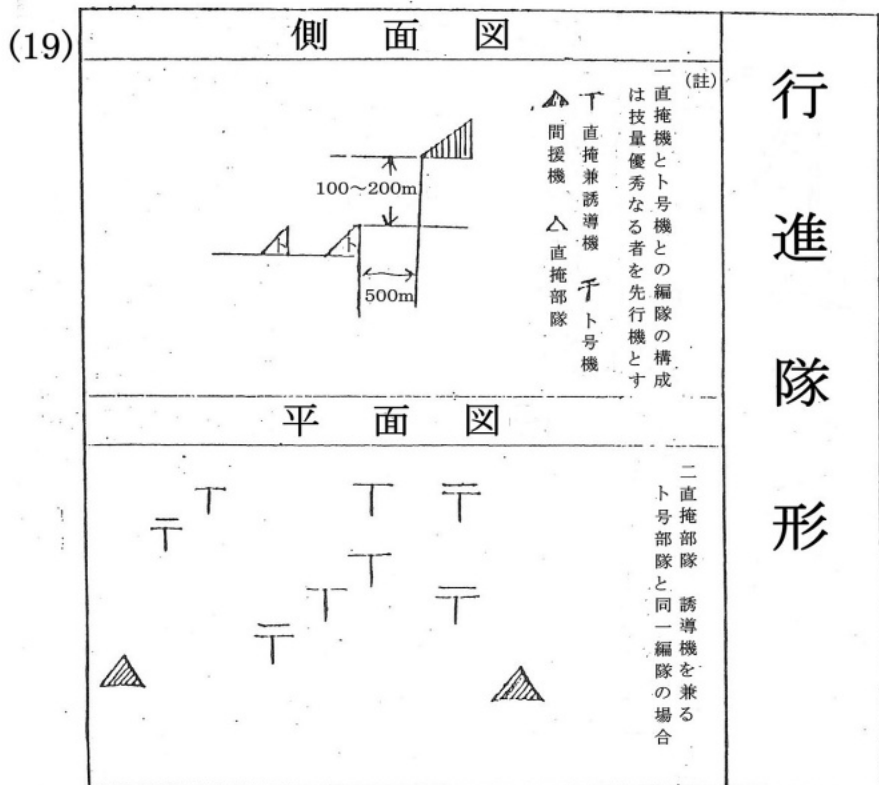
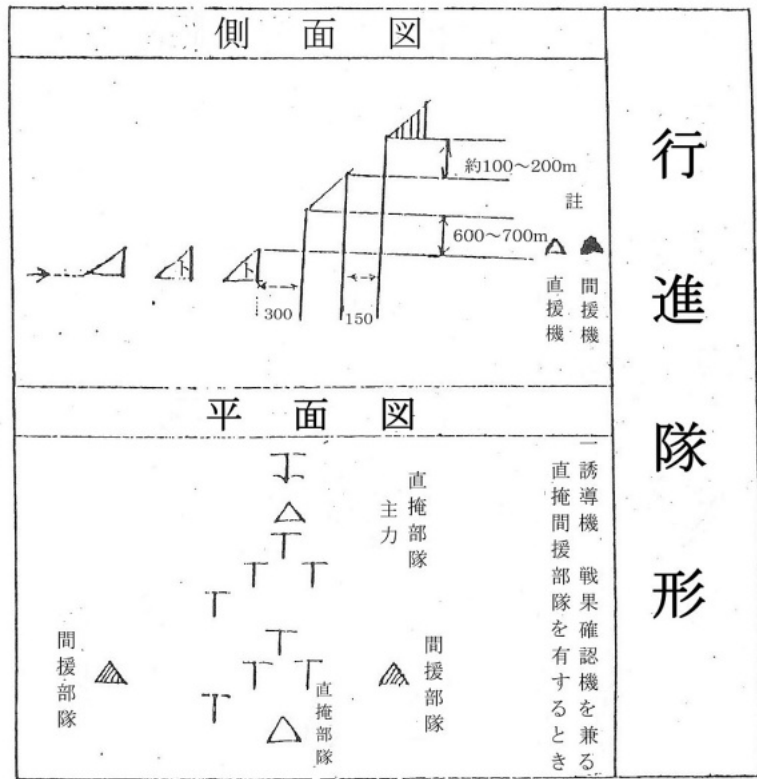
<p>時來 夕ラバ</p>	<p>愛機ヲ 悲シマ セルナ</p>	<p>堅確ナル 意志ヲ 保持セヨ</p>
<p>自分バカリデハナク愛人(殺)モ 現世ニ殘ス未練ナクアツサリ 飛ビ立ワ心意氣ヲ持クナケレバ ナラヌ 立ッ息跡リ濁サスト謂フ</p>	<p>愛機ニ人格ヲ見出セ 出来ルヲケ傍ニ居テヤレ 腹カ減ツテハ斗ナイカ 性我ハシテ斗ナイカ 流レル汗ハ拭イテヤレ</p>	<p>出撃命令ハ何時來ルカワカラヌ何時テモ 来イ準備ガ出来テオルカ併シ 好機ヲ待ツ向ガ非常ニ長イ場合モアル 所謂待ツ身ノ辛ラサダ此ノ辛ラサニ 員ケテハナラヌ ①員ケテ汚名ヲ殘シノ者ハ同期ノ中ニナカ ツタカ</p>

<p>(17) 三</p>	<p>二</p>	<p>一</p>	<p>攻 撃 手 實 施</p>
<p>航 進 高 度  攻撃要領ヲ握リ敵情攻撃ノ時 機及天候氣象等ニ依リ進ツカ 強襲——高々度急進接敵 奇襲——超低空接敵</p>	<p>航 進 隊 形  狀況特ニ強襲カ奇襲カ又兵力 敵情等依ツテ異ルカ一例左 圖ノヨウデアル</p>	<p>發 進 順 序  誘導機<sup>①</sup>—間掩<sup>②</sup>—直掩<sup>③</sup>—と号<sup>④</sup> (強襲願慮分場合間掩先發テトカレ)</p>	

立飛現自時 流怪腹出愛愛 か◎な所をで出堅(16)  
 つび世分に來 れる我が減るに機機 っ負ら謂待も撃確  
 鳥立にばれ るは減るにを たけぬ待つ來命なる  
 跡つ残かば 汗しっだ人悲 かくて つ間いのは意  
 を心すり 拭いて傍を格し 汚身が非準何志  
 濁意未練は いていなに見せ 名辛常備時を  
 さ氣練はな いていかに居出せる 残した長出保  
 ずをなくく てもなくく 残した長出保 持  
 と持なくく てもなくく 残した長出保 持  
 謂た愛人 ばあ(機)も ねさ(機)も ばさ(機)も  
 うねあ人 ばあ(機)も ねさ(機)も ばさ(機)も  
 ばあ(機)も ねさ(機)も ばさ(機)も

奇強象攻 三 依 二 あり(一) 一 攻撃(17)  
 襲襲等擊航 っ状航 っ敵誘 一 發  
 | | 要進 て特進 顧 | 進  
 超高に領高 異に隊 慮 | 順  
 低々依及度 なる襲 顧 | 序  
 空度つ機 がる襲 慮 | 援  
 接急て種 が一奇 慮 | 援  
 敵速違敵 例襲 慮 | 場直 ③  
 敵接う情 左か 慮 | 合掩  
 敵が攻 凶又 慮 | 間 ↑ ④  
 擊の の兵 慮 | 援ト ④  
 の時 力の 慮 | 先号  
 機及 敵情 慮 | 発す  
 及天 であ 慮 | るこ  
 候 候に 慮 | と





(20)

航進間敵機ト遭遇シタラ

目的ハ決ツテ居ル相手ニスルナ

而シ 戦闘ガ起キヲ

掩護部隊トと号ハ分離スルユトガ  
多イ 而シ直掩ハ飽クマデと號  
部隊ト離レナイヨウニスルガ

遂ニ離レタラ

と號部隊指揮官ハ齒ヲ喰ヒ  
シハツテ断然征ケ

(21)

中途カラ還ラネバナヲ又時ハ

天候ガ悪ルクヲ自信ガナイカ  
目標ガ發見出来ナイ時算

落艦

スルナ

大死シテハナラ又小サモ感情ハ  
捨テロ  
國体ノ護持ヲドスル  
部隊長ノ訓辞ヲ思ヒ出セ  
ソシテ

明朗ニ潔ヨク還ツテ来イ

航進間敵機と遭遇したら

目的は決まって居る相手にするな

而し戦闘が起きたら

援護部隊とト号は分離すること  
多し直掩は飽くまでト號部隊が  
と離れないようにする

遂に離れたら指揮官は齒を喰い

ト號部隊指揮官は齒を喰い  
しつて断然征け

中途から還らねばならぬ時は

天候が悪くて自信がないか  
目標を発見出来ない時等

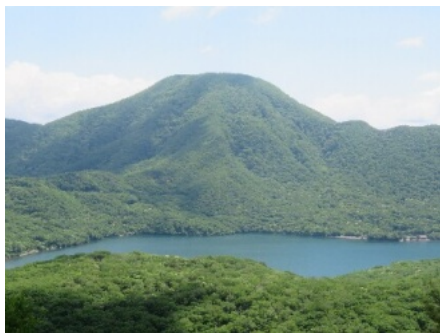
落胆するな  
犬死してはならぬ小さな感情は

捨てる  
国体の護持はどうする  
部隊長の訓辞を思い出せ

そして

明朗に潔く還って来い

楡柄山から黒檜山と大沼



さなアップの中を、小吹く緑の木々やかな風があるが、爽有刺鉄線であるが、爽やかな風が吹く緑の木々の中を、小

9時40分に、標高一、四一〇mの登山口を出発、牧場に沿って姥子峠まで登って行く。峠に出たら細かい尾根歩きとなる。右手は牧場の有刺鉄線であるが、爽やかな風が吹く緑の木々の中を、小さなアップ

11時35分、やっと頂上に到着した。大岩を借りて昼食とした。12時30分、下山開始。登り以上に慎重に下った。大ダオから、今度は楡柄山までの登り返しになる。これはさすがにきつく、休みを取りながらゆっくり登って行った。14時5分、登山口に到着。往復4.8km、登山口との標高差は少ないものの、楡柄く鈴ヶ岳間の厳しさが印象的である。お目当てのツツジは、散る前の状態ではあったが、登山道沿いに残っており、十分楽しめた。(令和7年6月18日)

連載 山ある記32 群馬県「鈴ヶ岳」

会員 池田康博

鈴ヶ岳は、赤城山の外輪山の一つである。赤城山は、5月下旬から6月中旬まではツツジの山でもあり、昔見たツツジの景色を思い出しながら、ちよつと遅いかな思いつつ6月18日に、鈴ヶ岳に登った。

鈴ヶ岳は、外輪山とはいえ、沼田側から見るとよく分かるが、巨大な釣鐘型の独立した山体である。標高は一、五六四m。登山口は、赤城道路の新坂平駐車場に向かいにあって、白樺牧場と接している。

ダウンを繰り返しながら歩く。一、四八七mの姥子山を越え、楡柄峠を過ぎて、標高一、五六二mの楡柄山の頂上に立つと、正面に赤城の主峰、黒檜山と、火口原湖の大沼が現れた。ここまです森の中の道であったので、大休止してしばらくその景色を堪能した。楡柄山を過ぎると、今度は鈴ヶ岳に向かつての下りとなる。木々の間からは正面に鈴ヶ岳が見える。その姿は、まさに先が尖った釣鐘だ。登山道は、やせ尾根の急な下りで、何カ所にも備えてあるロープと、木の枝や幹で体を支えながら、11時7分、標高一、四一七mの大ダオまで下っていった。

鈴ヶ岳山頂の石碑



山頂は低い木々が周囲を囲み展望はない。ハルゼミがジイジイとうるさく鳴き、羽虫がやたらと飛び交う中、石碑の前の

この山は古来、山岳信仰の地だったようで、赤城山大神、鈴嶽山神社、愛宕山大神の大きな石碑が並んで立っていた。

絵の寄贈を受けました。

編輯長 金子 敬志

令和7年9月18日(木)世田谷山観音寺における月例法要に参列された澤口恵子さまから絵の寄贈を受けましたのでご紹介します。澤口恵子さまは兵庫県西宮市で英語塾「英語寺子屋ACADEMY」を開かれています。

澤口様はこの絵を全国の護国神社に贈呈されておられます。

合わせて塾の生徒さんからの絵も寄贈頂きました。



澤口恵子様と石井事務局長



澤口様から寄贈頂いた絵



生徒さんからの絵

書籍紹介

『人はなぜ戦場に赴くのか』

会員 鈴木 千春

『人はなぜ戦場に赴くのか』 畑中丁奎  
著 (芙蓉書房出版)

本書は「一億総特攻」という言葉に象徴される戦争末期の狂気と、その時代を生きた人々の声を丹念に拾い上げた貴重な記録です。特攻を命じた者と、実行した者、という両方の立場から問題の本質に迫り、当時の社会構造や心理にまで鋭く切り込んでいます。

「特攻隊員は何のために死んでいったのか」著者が取材した元特攻隊員と、関係者の言葉が印象的です。

戦後社会の腐敗に対し、悲憤している元整備員は「過ぎる大戦に我が先輩同期は17.8歳にして国難に殉ずべく、競って志願して沖縄の空に神風となって逝ったが、もしこの現在の世相を知っていたならば、誰一人として出撃しなかったであろう」と、現代を生きる私たちに強く訴えかけてきます。

また、自ら志願したパイロットは、「死ぬとか生きるとか関係なかった。この時は戦死が当たり前だったので、戦死

した隊員の遺物を見ても特に思うところはなかった」と語ります・・・。  
その言葉からにじみでる、戦時中の彼らの価値観と覚悟に心を揺さぶられました。

特攻は、遠い過去の狂信的行為ではなく、社会の空気と組織の論理が生んだ現実でした。私たちは、時代背景をしっかりと

りと理解したうえで、先人の思いにもっともつと耳を傾ける必要があります。戦争体験の風化が進む今だからこそ、読まれるべき一冊と思います。

人はなぜ  
戦場に赴くのか

一億総特攻の歴史

畑中丁奎

「一億総特攻」の狂気、その真実を問う。

特攻隊員の志願と命令、そしてそれを推進した者たちの責任とは？ 戦後長らく語られなかった悲劇の深層に迫る、渾身のノンフィクション。

芙蓉書房出版

特攻文芸

短歌・俳句・川柳の部



● 飛行機で 竜宮に行くとの 文残し

飛び征く君の 想いよとどけ

● 私の 残りの人生あげるとぞ

語りし君の 想いせつなき

淳子

● 秋空に 一筆書きの 飛行雲

● すすき野に 足あと残す 秋の風

ネコ

● 赤とんぼ 出番に迷う 温暖化  
 ● 秋って何 百年後の 子供たち

ネコ



**事務局からの報告等**

一 住所等の変更について

現在、会報は、メール便にて皆様にお届けしています。メール便は、あて先が少し違っただけでも事務局に返送され、お届けすることが出来ません。

実は、毎号、十数通が「宛先不明」で返送されており、郵便局から再度発送の事務を行っております。

転居又は地番等が変わった場合には新しい住所名を、また、同居されるようになった場合は、「〇〇様方」まで必要となりますので、電話やメール、FAXなど、事務局にご連絡下さいますようお願い致します。

二 年会費及び寄付金の税額控除

当顕彰会は公益財団法人として認定されていますので、年会費も税制上は「寄付金」となります。このため、年会費を確定申告する事により税額控除を受けることが出来ます。

確定申告に必要な「寄付金受領証明書」と「税額控除に係る証明書㊦」が必要な方は遠慮なく事務局へご連絡下さい。

なお、年会費も含めて一万円以上の御寄付をされた方には、ご連絡の有無に係らず十二月月上旬に送付しています。

三 休載のお知らせ

顕彰譜は紙面の都合により休載とさせていただきます。

四 寄付者御芳名(敬称略)

(令和7年7月1日～9月30日)

(単位千円)

三〇〇	御船 滋	八〇	馬場しづ子	三	(公財) 全慰協	三	兒玉 洋子
四七	相田 博司	三〇	吉田 文堯	三	館本 勳武	三	沢田 進
二二	降矢 達男	二〇	遠山三千代	三	秋元 光広	三	徳光 善宣
一〇	服部 義隆	一〇	猪瀬 和英	三	黒川壯之介	三	森澤 勇司
一〇	粕井 隆	一〇	前芝 辰二	三	藤原 淑子	三	古川五十雄
一〇	竹野 好展	一〇	松尾 文誠	三	内田 真吾	三	久保 輝明
一〇	吉田 三郎	一〇	齋須 将	三	深井 宣光	三	岩浅 博之
一〇	久住 浩文	一〇	網野 麻理	三	柄澤 寛之	二	石川 武
七	服部 武志	七	加藤 拓	二	池田 峰一	二	中島 尚史
七	鮫島美知子	七	沖 周治	二	吉田 治正	二	呉 正男
七	若月 良介	七	藤永 雅彦	二	山本 亘	二	豊岡 久
七	中熊 真一	七	山田朱実子	二	飯田 美絵	二	河野 正信
七	武安 俊隆	七	神林 千祥	二	羽瀨 徹也	二	島田 正登
七	大原 江伸	六	加藤 千佳	二	岡部 俊哉	二	荒木 紫帆
五	白田真一朗	五	岩崎 茂	二	村山 公一	二	鹿野里津子
五	城ヶ端 専	五	佐藤 義信	二	福田 常夫	二	生峯 和代
五	林 佐吉	五	後藤 賢治	二	中村 弘庸	二	舛谷 正雄
五	天野 弘子	五	佐々木文雄	二	森永 真史	二	曾根田太郎
五	飯田 隆夫	五	佐藤 睦子	二	松山 泰之	二	波部 修三
四	中村光太郎	四	兼村 博之	二	小澤美智江	二	岩本 哲男
三	佐藤 穰	三	椿 孝則	一	武藤 一彦	一	江守 聖学
三	岩月 仁志	三	木村 俊夫	一	安藤佐智子	一	福島 隆夫
					一 井本 徹		山下 博
					五 新入会員名簿(敬称略)		
					(令和7年7月1日～9月30日)		
					北海道 竹俣 寿子		
					埼玉 山口 嘉大		
					山口 真由美		

東京	小西 泰輔
神奈川	鈴木 哲司
神奈川	網野 麻理
神奈川	熊谷 淳子
神奈川	熊谷 美奈子
岐阜	深井 宣光
兵庫	上田 陽一
兵庫	久保 輝明
沖縄	桃原 広幸
五	会員計報(敬称略)
東京	高井 賢一 (6・3・24)
東京	岡部 俊久 (7・9・5)
神奈川	小松 嶺生
神奈川	竹田 俊幸 (7・8・19)
京都	千 玄室 (7・8・14)
高知	東川 正弘

ご冥福をお祈りします。



**会員ご入会のご案内**

「特攻隊戦没者に感謝と敬意を」

当顕彰会は、先の大戦の末期、一つしかない命を、祖国の安泰と家族や大切な人のために捧げられた特攻隊員に対し「あなた達のことには忘れません。有難うございます。感謝します。私たちも努力します。どうぞ安らかに！」を胸に、慰霊・顕彰を行う団体です。これにご賛同して頂ける方ならどなたでも会員にお迎えいたします。多くの皆様のご入会をお待ちしております。

○当顕彰会の主な事業

- ・特攻隊戦没者の慰霊顕彰(他団体への参加を含む)
  - ・会報の発行等による特攻及び戦没者の伝承等
  - ・特攻に関する資料の収集、調査、図書等の貸出講演会等の開催その他
  - ・全国護國神社への特攻像の奉納・建立
- 年会費
- ・一般会員 3000円
  - ・学生会員 1000円
- URL: <https://tokkotai.or.jp>
- QRコード



**ご投稿についてのご案内**

ご投稿に際しては、次の点にご留意くださるようお願い致します。

- 1 原稿は、手書き、ワープロ、パソコン作成のいずれでも結構です。可能ならば、ワードファイル、又はテキストファイルで頂ければ幸いです。PDFファイルは編集の都合上、お受けできません。
  - 2 記事の取捨選択、紙面の都合等による一部割愛、修文等については、当顕彰会にお任せ願います。
  - 3 投稿記事に関する写真がありましたら、なるべく添付して下さい。
  - 4 原稿、写真等は、原則としてお返し致しません。が必要な場合はその旨お書き添え下さい。
  - 5 会員以外の方の投稿も歓迎致します。
  - 6 投稿記事等の送付先は、左記宛てとして下さい。
- T10210072  
東京都千代田区飯田橋一丁目5-7  
東専堂ビル2階  
公益財団法人 特攻隊戦没者慰霊顕彰会  
電話 03-5213-4594  
FAX 03-5213-4596  
E-mail [jimukyoku@tokkotai.or.jp](mailto:jimukyoku@tokkotai.or.jp)